

## II 調査結果の概要

### 第1章 男女共同参画に関する意識

#### 1. 男女の地位の平等感

問1 社会のいろいろな面において、男女は平等になっていると思いますか。次のア～クのそれぞれについて、1～6の中から1つずつ選び、○で囲んでください。

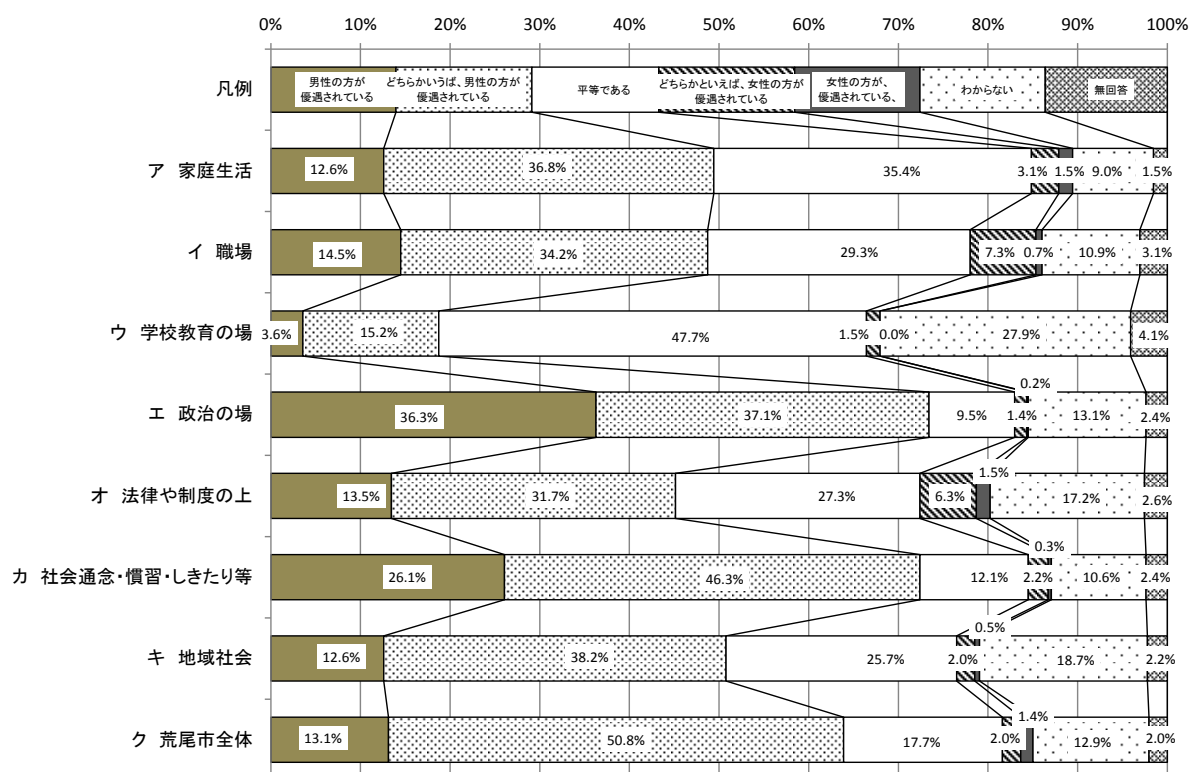
男女の地位の平等感について、家庭生活、職場、学校教育、政治、法律や制度上、社会通念等、地域社会、荒尾市全体の8つの分野において回答を求めた。この質問は国や県においても同様のものが調査されている。

平等感が最も高いのは「学校教育の場」47.7%。次いで「家庭生活」35.4%、「職場」29.3%、「法律や制度の上」27.3%、「地域社会」25.7%、「荒尾市全体」17.7%、「社会通念・慣習・しきたり等」12.1%、「政治の場」9.5%の順であった。

「学校教育の場」の平等感は2番目の「家庭生活」より10ポイント以上高い。「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり等」「荒尾市全体」「地域社会」では、「どちらかと言えば男性優遇感」の割合が高くなっている。

女性優遇感が最も高いのは「職場」8.0%（「女性が優遇」7.3%と「どちらかと言えば女性が優遇」0.7%）であり、次いで「法律や制度の上」7.8%（6.3%+1.5%）であった。

#### <総括>



## ア) 家庭生活

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が36.8%と高く、「男性の方が優遇されている」12.6%と合計した「男性優遇」と感じている人は、49.4%であり、逆に

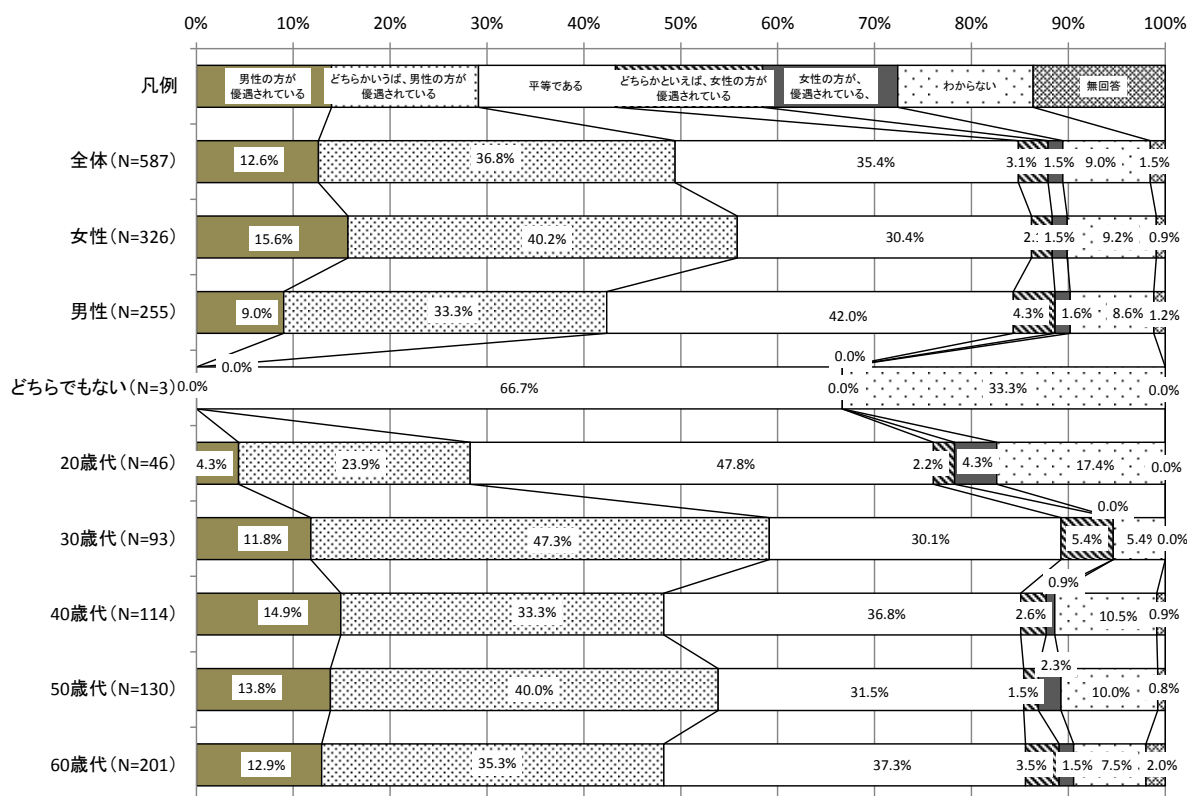
「女性優遇」（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」3.1%+「女性の方が優遇されている」1.5%）と感じている人は、4.6%と非常に低い結果であった。

男女とも「男性優遇」感が強く、女性55.8%（15.6%+40.2%）、男性は42.3%（9.0%+33.3%）であり、全体でみると前回調査（51.2%（15.1%+36.1%））との差はわずかだった。

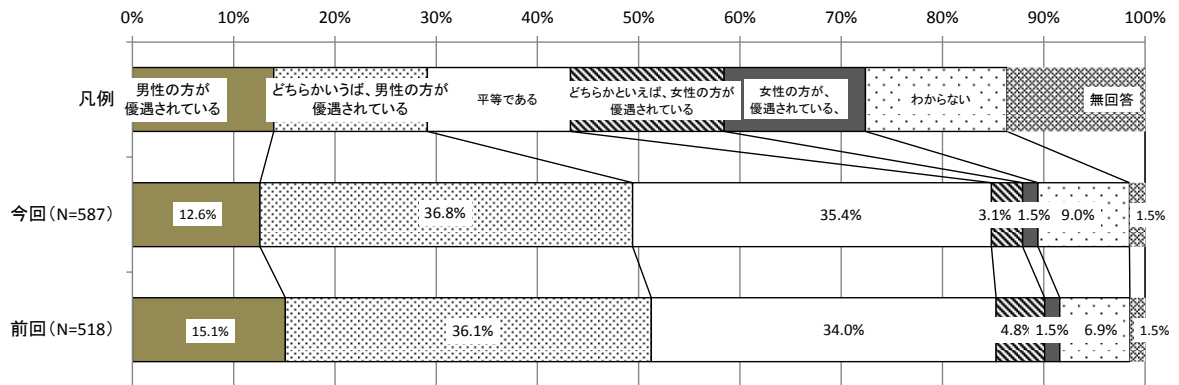
年代別では、「平等」と答えた人は多い年代から順に20歳代47.8%、60歳代37.3%、40歳代36.8%、50歳代31.5%で、最も低いのは30歳代30.1%であった。今回調査では40歳代と50歳代以外の年代の「平等」が高くなっているが、20歳代が前回調査（42.7%）より5.1ポイント、60歳代が前回調査（32.4%）より4.9ポイント高い。

熊本県では「平等」39.3%、荒尾市は35.4%で若干少なく、「男性の方が優遇されている」は荒尾市が高くなった。

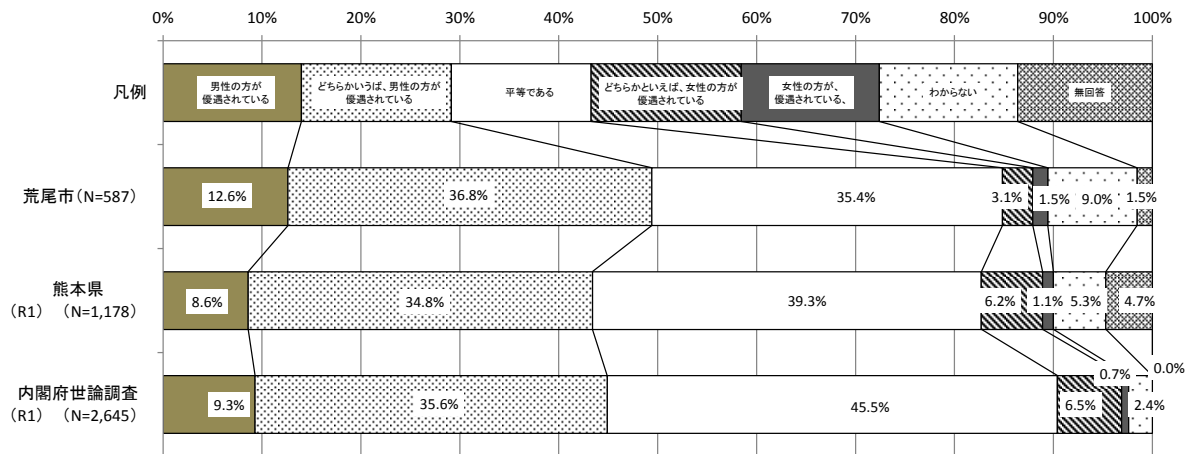
### <家庭生活>



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



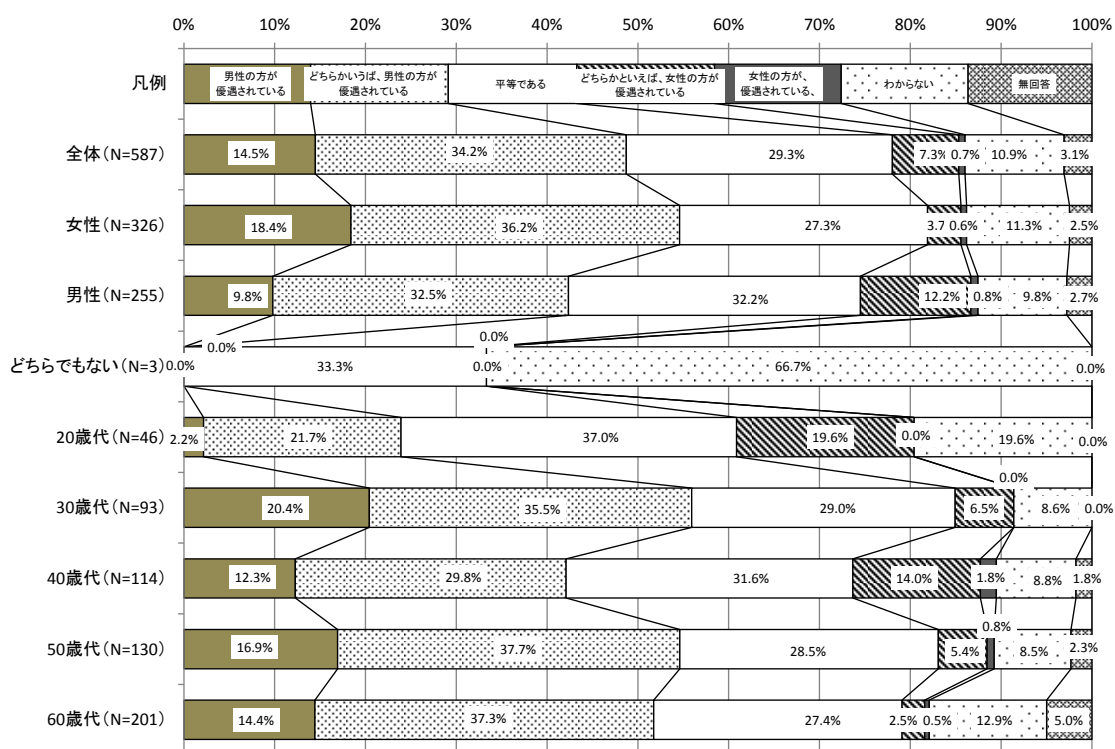
## イ) 職場

「男性優遇」は 48.7% (14.5%+34.2%)、「女性優遇」は 8.0% (7.3%+0.7%)であった。性別での「男性優遇」は、男性 42.3% (9.8%+32.5%)、女性 54.6% (18.4%+36.2%)と全体でも性別でも「男性優遇」と感じる意見が高くなり、男性より女性のほうが「男性優遇」と感じる傾向が強い。この結果は、前回調査(男性 41.7% (12.8%+28.9%)、女性 52.4% (15.7%+36.7%))と比べて低くなっており、平等感の改善が見られている。

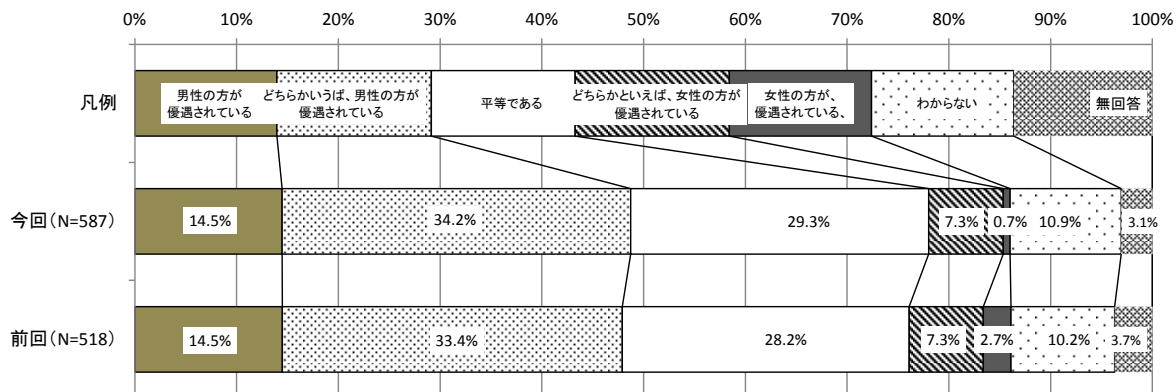
年代別では「平等」と答えた人は 20 歳代 37.0%が最も高く、次いで 40 歳代 31.6%、30 歳代 29.0%、50 歳代 28.5%、最も低いのは 60 歳代 27.4%である。50 歳代は、前回調査 (42.5%) に比べて 14 ポイントも低くなっている。

熊本県との比較では「平等」はあまり差が見られないが、「男性優遇」は 6.1 ポイント荒尾市が高くなっている。

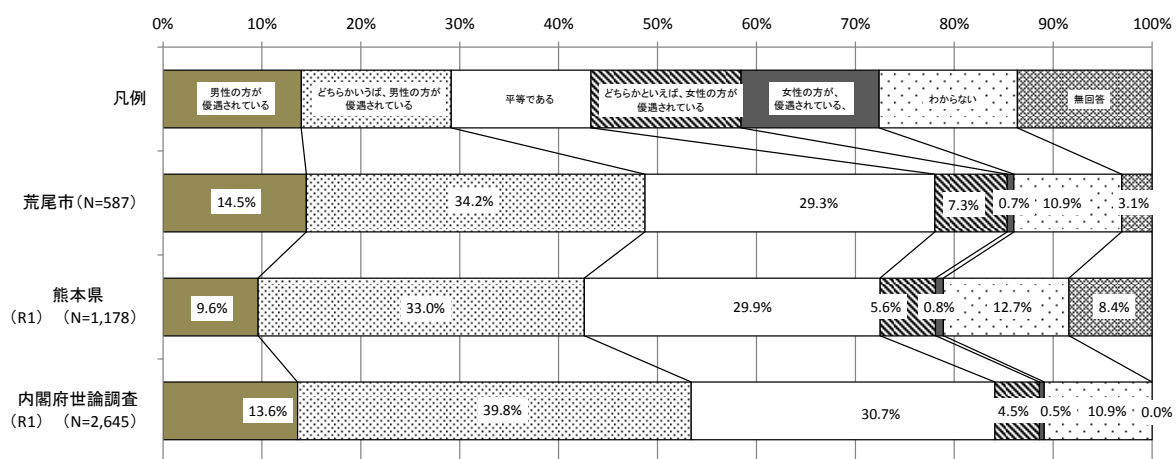
### <職場>



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



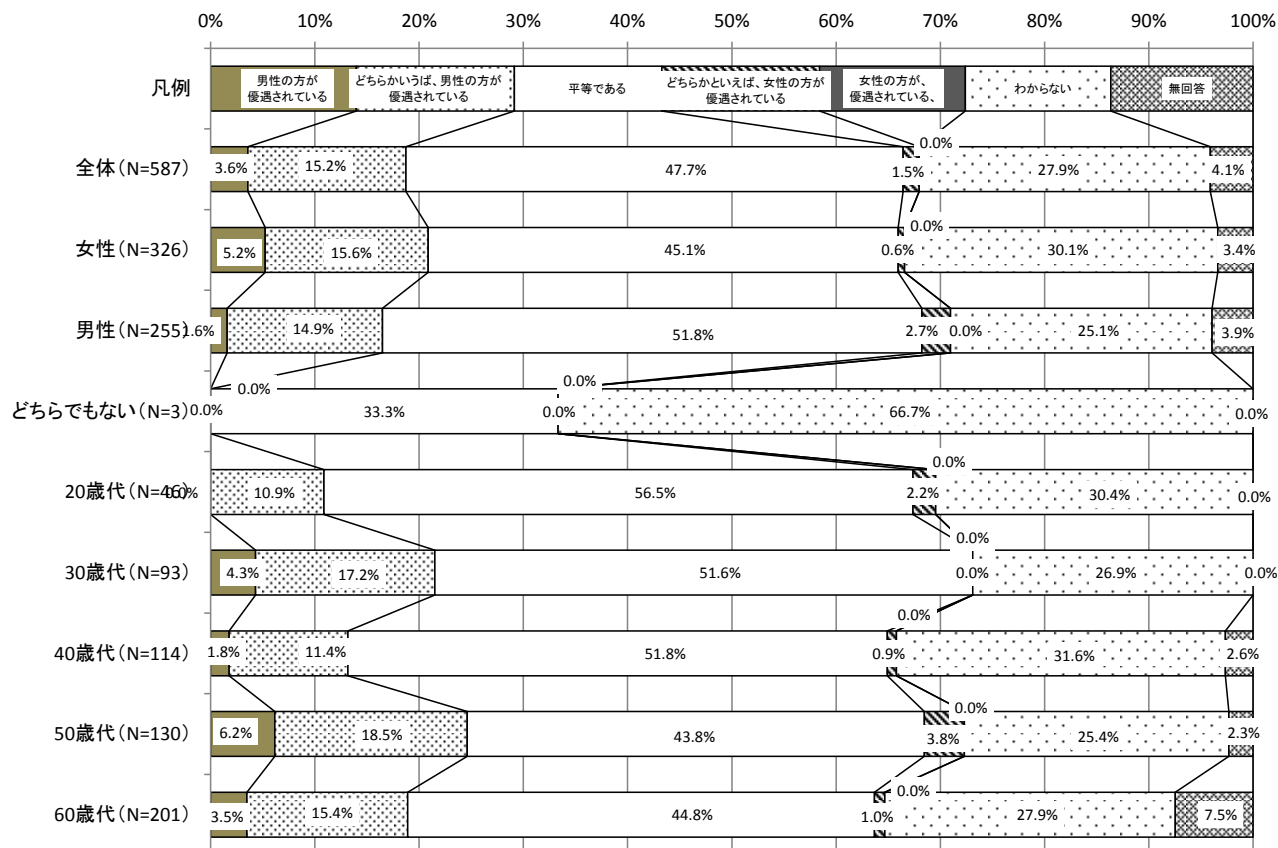
## ウ) 学校教育の場

学校教育の場では、平等と答えた人が 47.7%で、8 分野中で最も多い分野であり、平等感が 5 割近くを占めるのは学校教育の場のみだった。「男性優遇」は 18.8% (3.6% +15.2%) で「女性優遇」1.5% (1.5%+0.0%) よりも高かった。

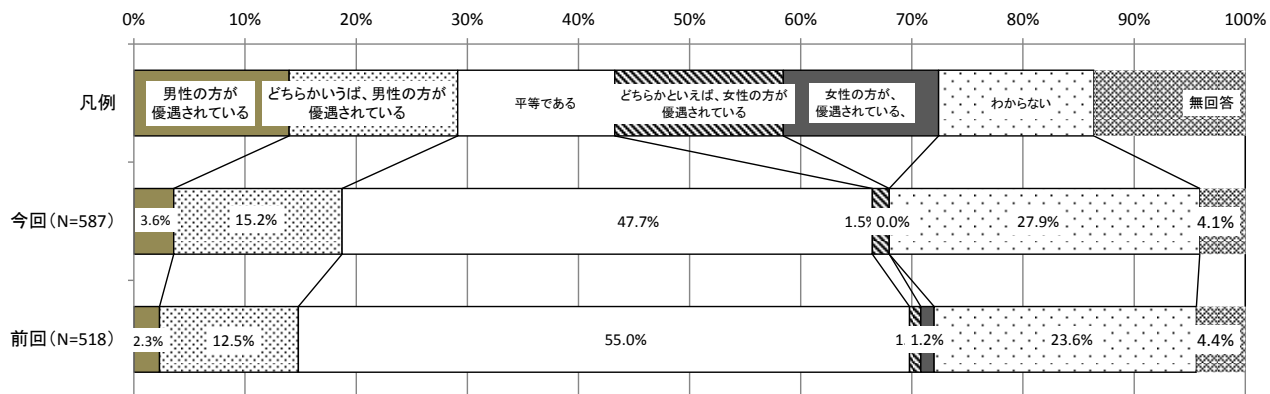
性別での平等感は女性 45.1%より男性 51.8%の方が 6.7 ポイント高く、年代別では、20 歳代 56.5%、30 歳代 51.6%、40 歳代 51.8%、50 歳代 43.8%、60 歳代 44.8%であった。50 歳代、60 歳代を除いたすべての年代は 50%を超えている。

学校教育の平等感は熊本県と比べても、4.2 ポイント高く、荒尾市民の学校教育の平等感は高い。

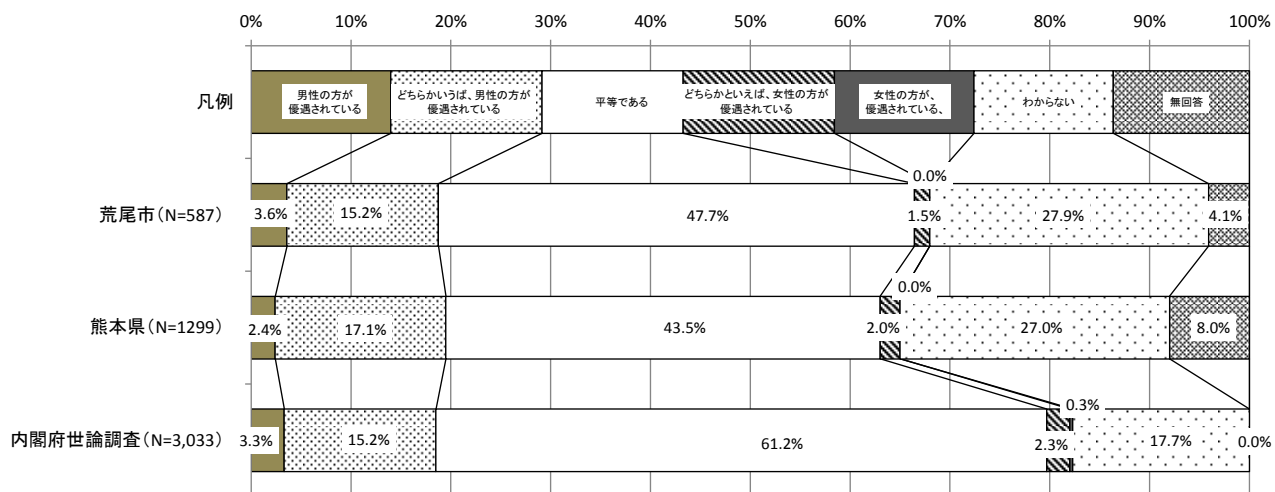
### <学校教育の場>



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



## 工) 政治の場

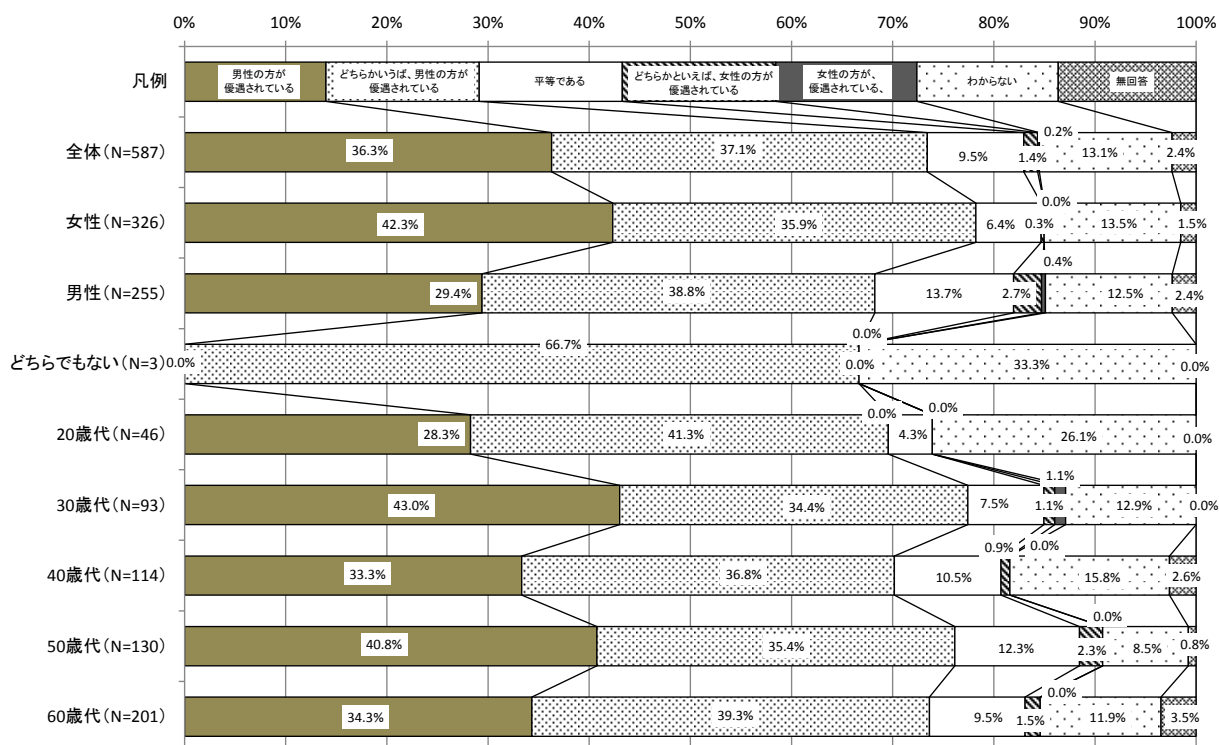
政治の場での平等感は8分野で最も低い分野であった。全体では「男性優遇」が73.4% (36.3%+37.1%) と高く、平等感は9.5%で、「女性優遇」と答えた人はわずか1.6% (1.4%+0.2%) であった。

性別では「平等」と答える人は男性13.7%、女性6.4%で、女性は男性の半数にも及ばない。「男性優遇」は男女共に高く、男性68.2% (29.4%+38.8%)、女性78.2% (42.3%+35.9%) である。「男性優遇」は男性より女性の回答が10.0ポイント高く、前回同様大きな差があった。

年代別では「男性優遇」は全年代にわたって非常に高く、平等感を感じている年代は高い順に50歳代12.3%、40歳代10.5%、60歳代9.5%、30歳代7.5%で、最も低いのが20歳代4.3%であった。

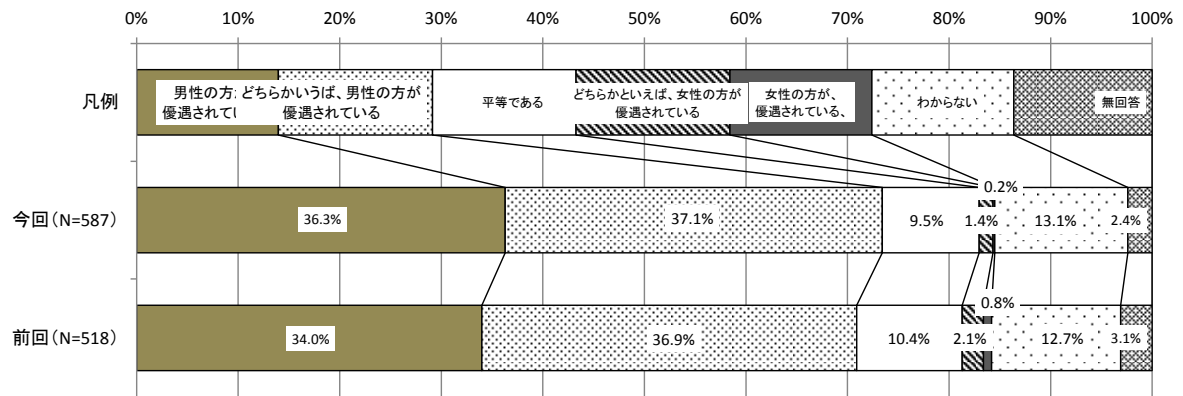
前回調査よりも平等感は低くなり、男性優遇感が高くなっており、熊本県全体と比べると男性優位感が高い。

### <政治の場>

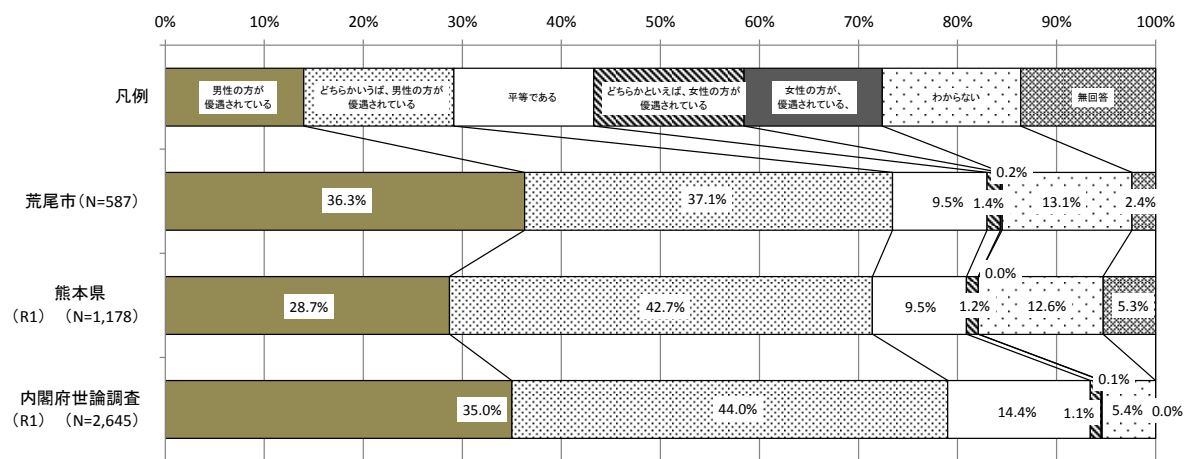




<前回との比較>



<他統計結果との比較>



## オ) 法律や制度の上

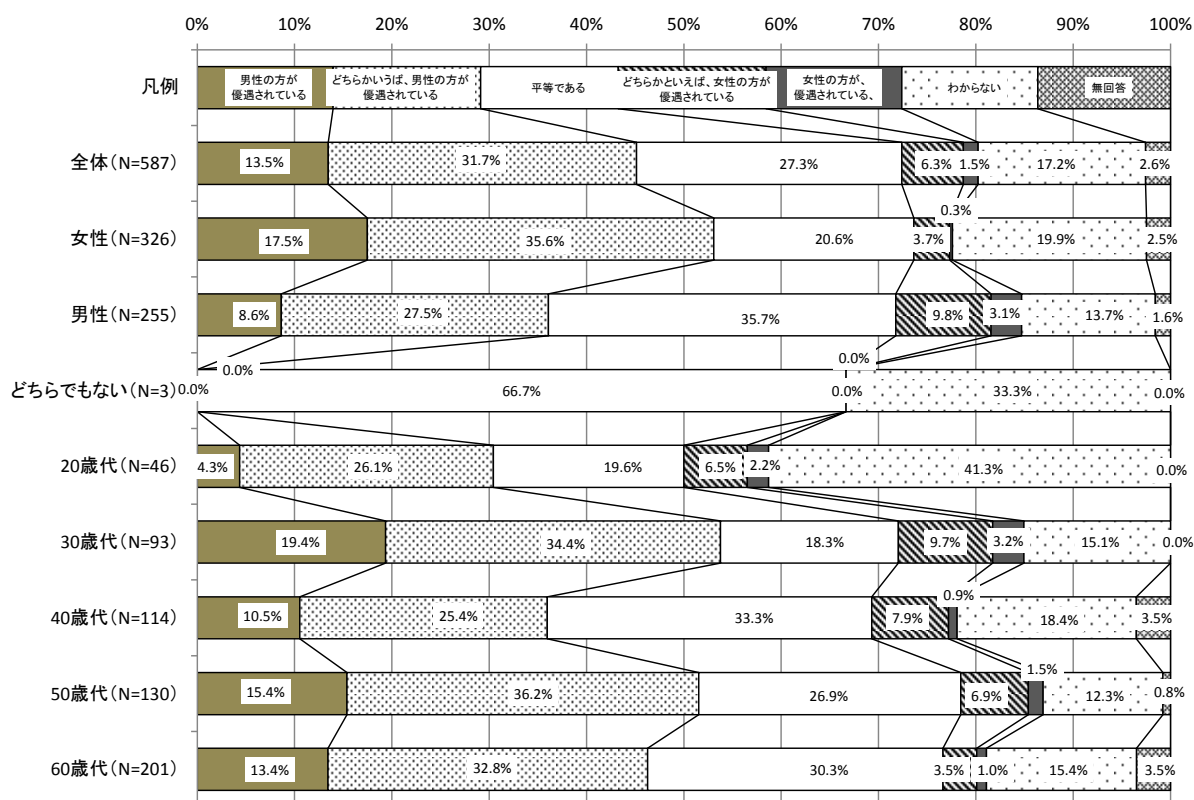
法律や制度の上での平等感は 27.3%で、8 分野のうち「学校教育の場」「家庭生活」「職場」に次いで 4 番目に高い分野である。「男性が優遇されている」は 45.2% (13.5% + 31.7%) であるが、「女性優遇」は 7.8% (6.3% + 1.5%) と 1 割に満たない。

性別でみると、平等感は男性 35.7%に対し、女性 20.6%と 15.1 ポイントの差がある。女性の「男性優遇」53.1% (17.5% + 35.6%)、男性の「男性優遇」36.1% (8.6% + 27.5%) で、両者に大きな差があることも前回調査 (女性 47.3% (15.0% + 32.3%)、男性 28.5% (4.6% + 23.9%)) と大きな変化はない。

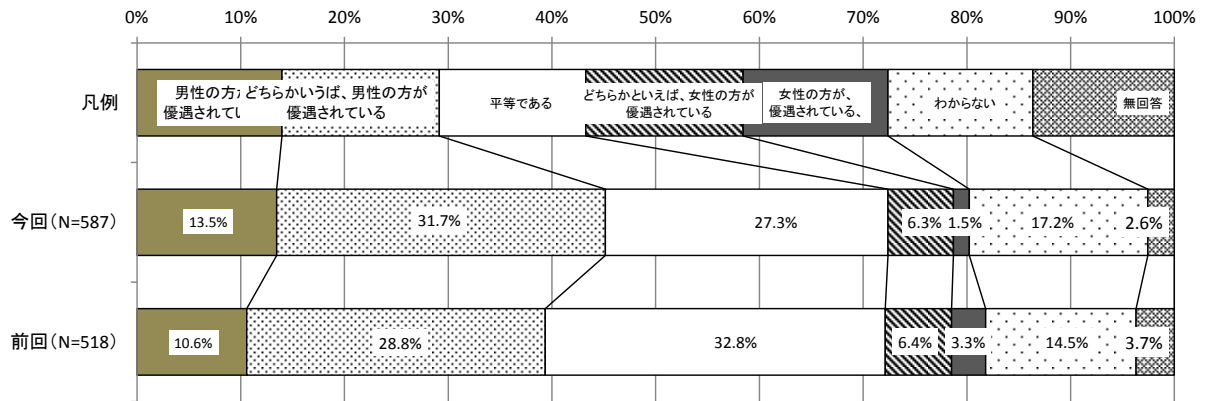
年代別では、平等感を感じている年代は、多い順に 40 歳代 33.3%、60 歳代 30.3%、50 歳代 26.9%で、最も少ないのが 30 歳代 18.3%で、どの年代も平等感は半数にも及ばなかった。

前回調査からは男性優遇感が増加し、平等感は 5.5 ポイント低くなっている。熊本県の平等感より 5.5 ポイント、内閣府調査からは 12.4 ポイント低い。

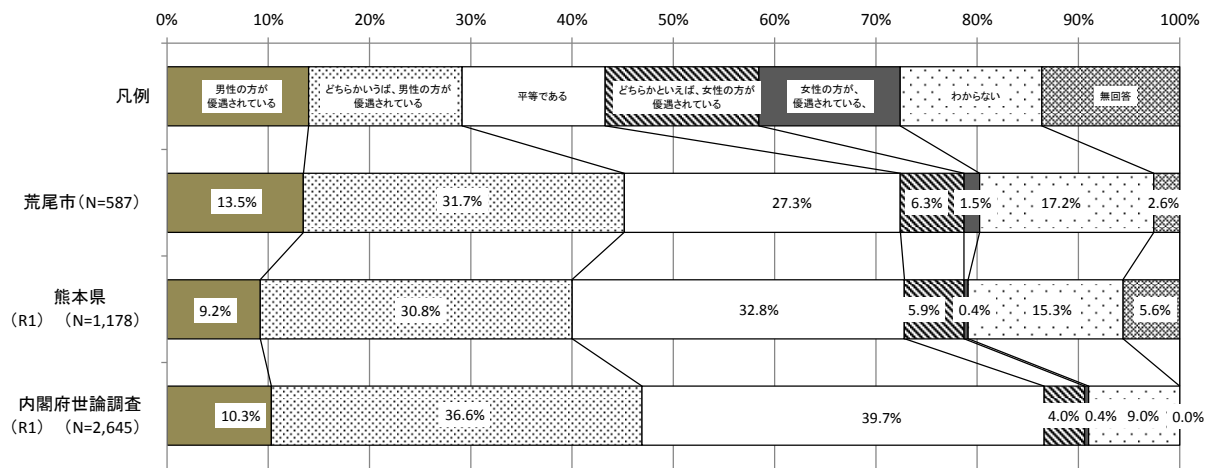
### <法律や制度の上>



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



## カ) 社会通念・慣習・しきたり等

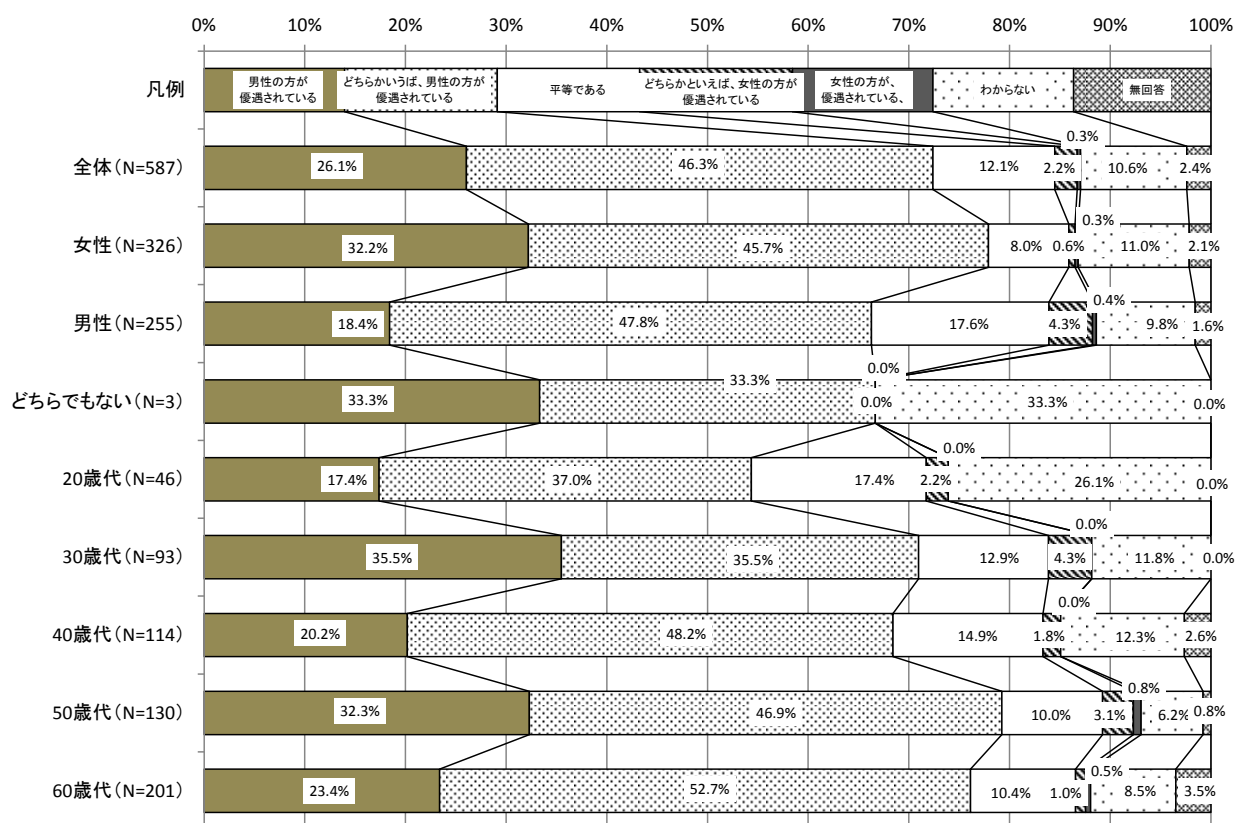
平等と答えた人はわずか 12.1%であり、前回調査とほぼ変化なく、8つの分野の中で2番目に少ない数値であった。「男性優遇」と感じている人が72.4%(26.1%+46.3%)と際立って多い。一方「女性優遇」は、2.5%(2.2%+0.3%)とわずかである。

性別でみると、平等感は男性17.6%、女性8.0%しかなく、9.6ポイントの差がある。

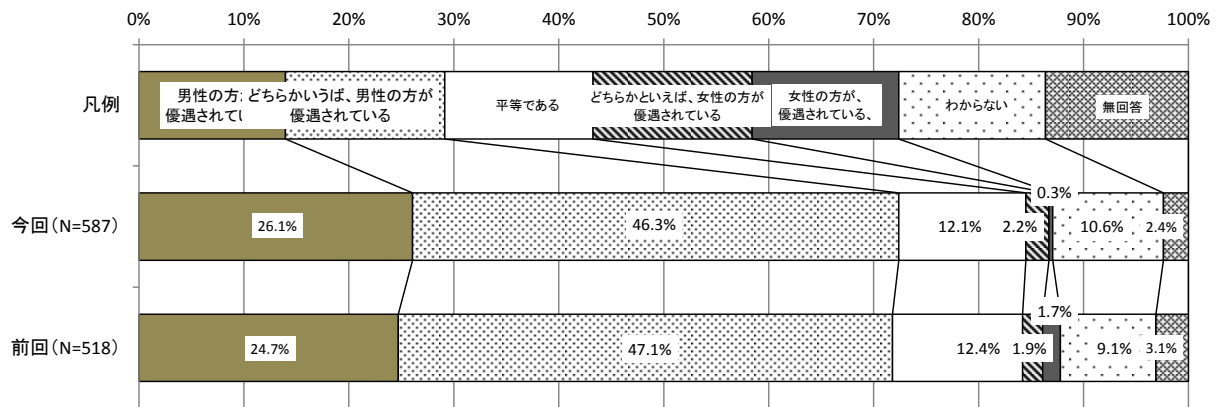
平等感を感じている年代は、高い年代から順に20歳代17.4%、40歳代14.9%、30歳代12.9%で、最も低いのが50歳代10.0%であった。前回調査と比較すると20歳代では前回8.0%から今回17.4%と9.4ポイント高くなっており、平等感の改善がすすんでいる年代もみられた。

熊本県との比較では、荒尾市民の平等感と同じ(全体:県12.1%、荒尾市12.1%)となっている。

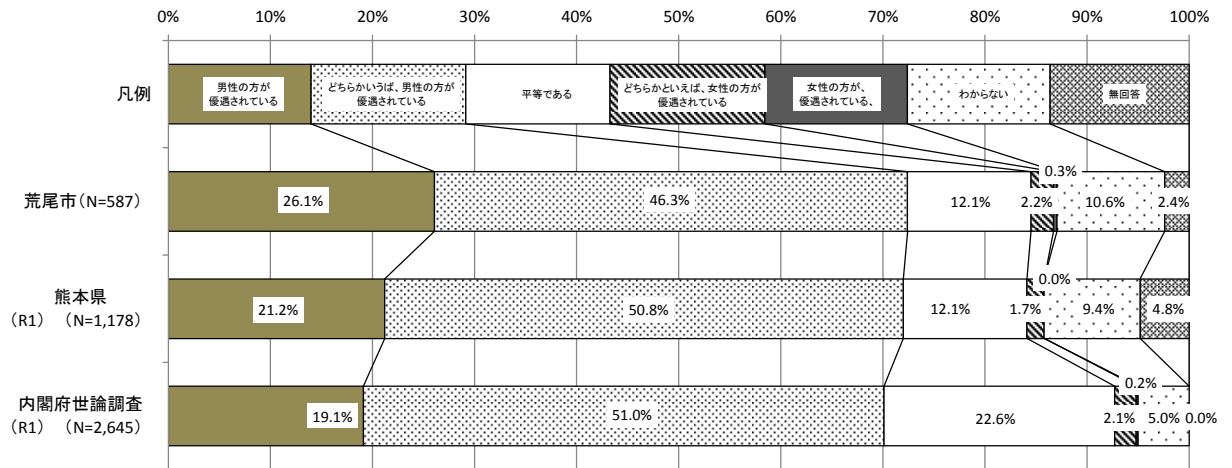
### <社会通念・慣習・しきたり等>



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



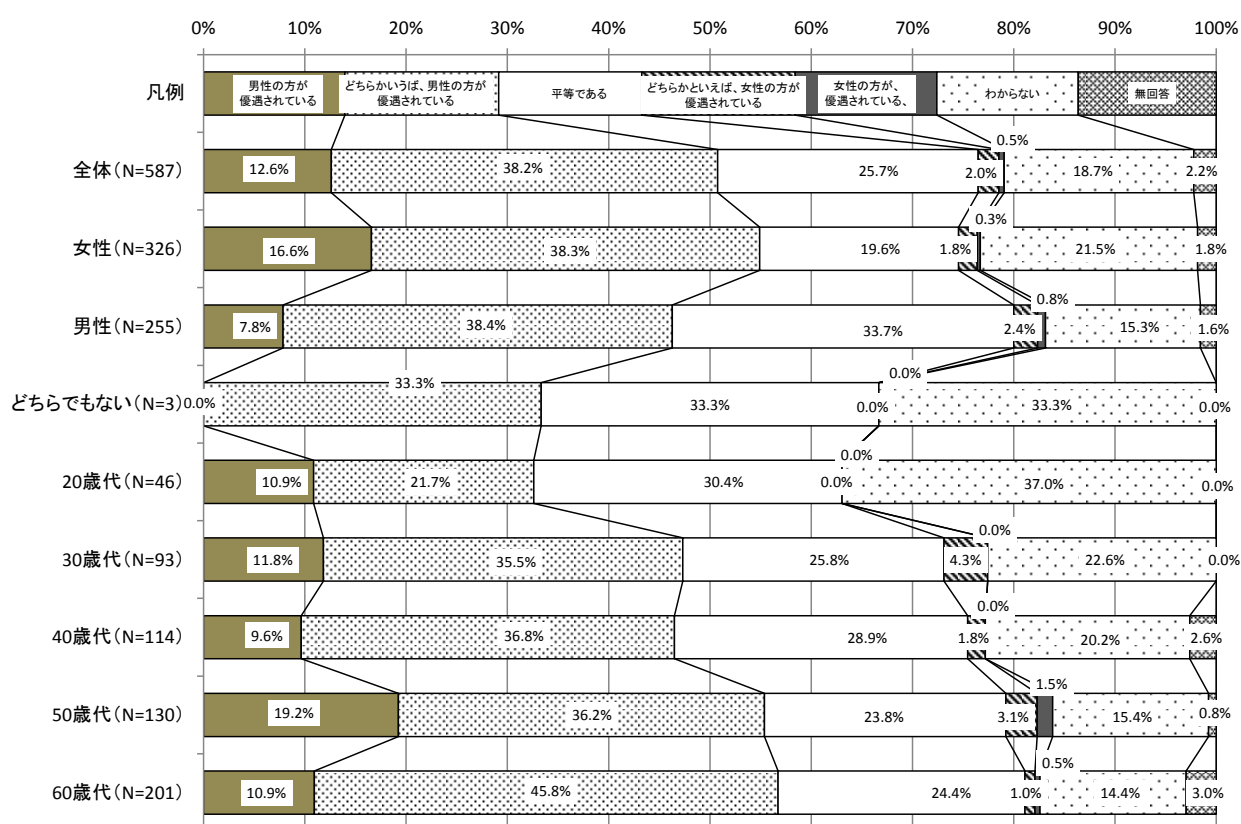
## キ) 地域社会

地域社会では、平等と答えた人が 25.7%であり、「男性優遇」と感じている人が 50.8% (12.6%+38.2%) で半数を占めた。性別で大きく違いがあり、「平等感」は女性 19.6% であり、男性は女性より 14.1ポイント高い 33.7%であった。

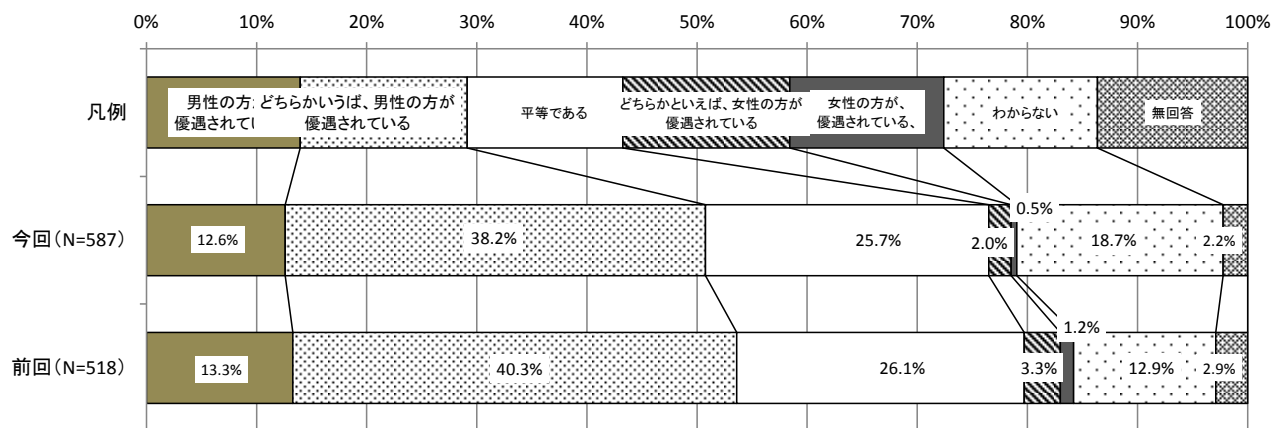
年代別では、平等感を感じているのは高い順に 20 歳代 30.4%、40 歳代 28.9%、30 歳代 25.8%、最も低いのが 50 歳代 23.8%であった。

前回調査と比べると大きな変化はない。

### <地域社会>



<前回との比較>



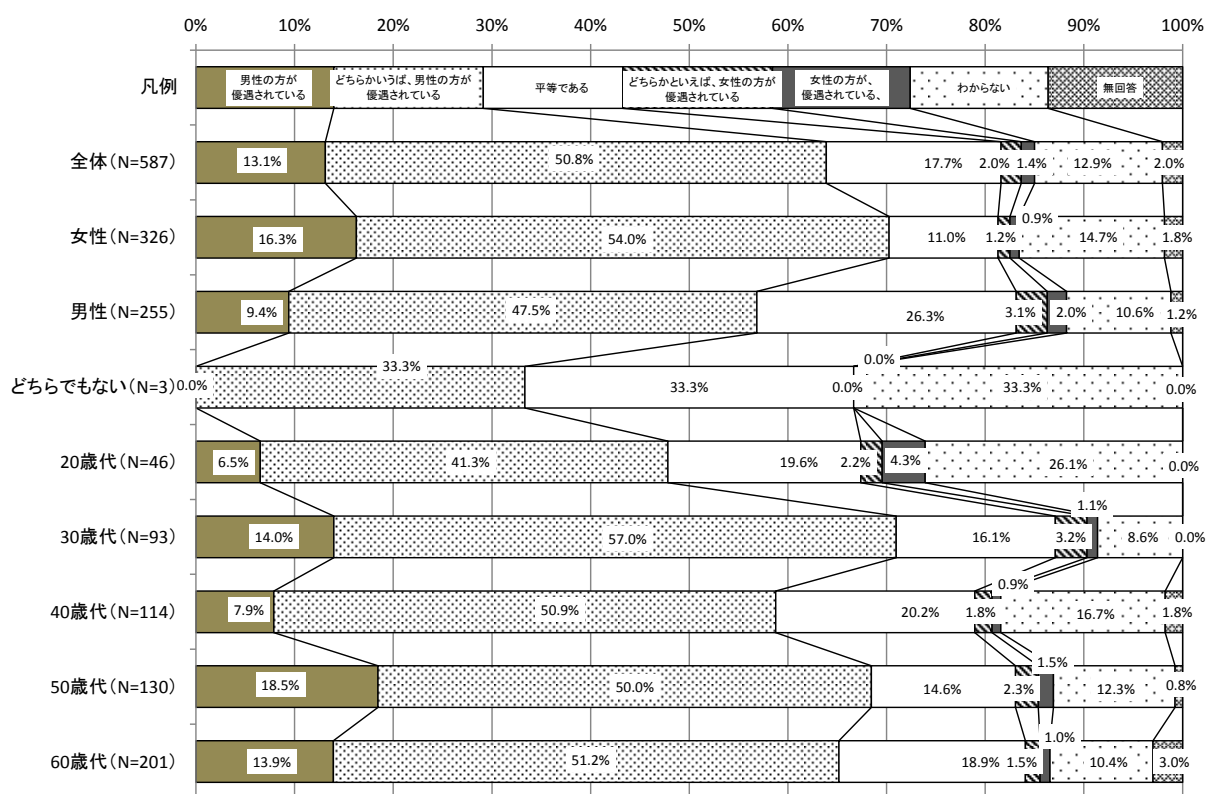
## ク) 全体として

荒尾市全体として、平等と答えた人は17.7%であり、「男性優遇」と感じている人が63.9%（13.1%+50.8%）で6割以上を占めた。性別で大きく違いがあり、「平等感」は女性11.0%であり、男性は女性の2倍以上の26.3%であった。

年代別では、平等感を感じているのは高い順に40歳代20.2%、20歳代19.6%、60歳代18.9%、最も低いのが50歳代14.6%であった。

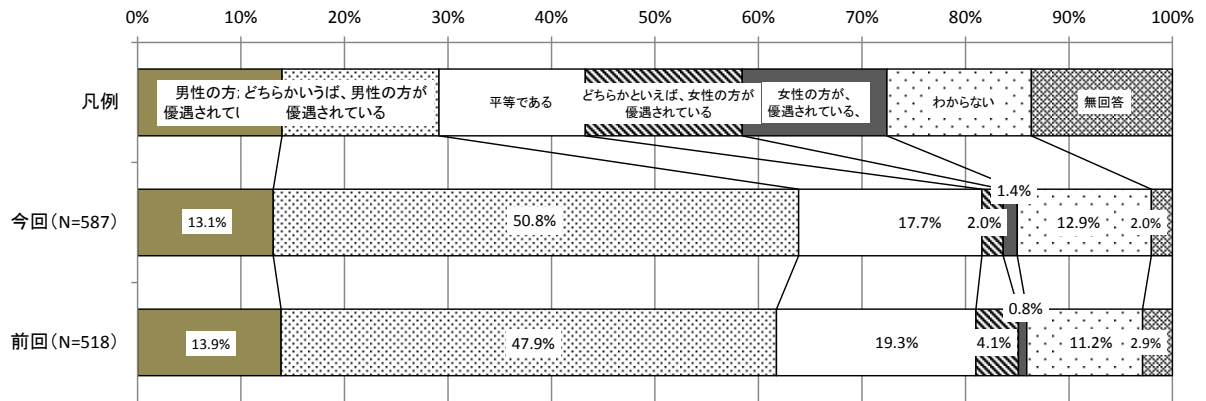
前回調査とほとんど変化はなく、内閣府調査と比較すると平等感は低い、熊本県とはほぼ同じとなった。

### <全体として>

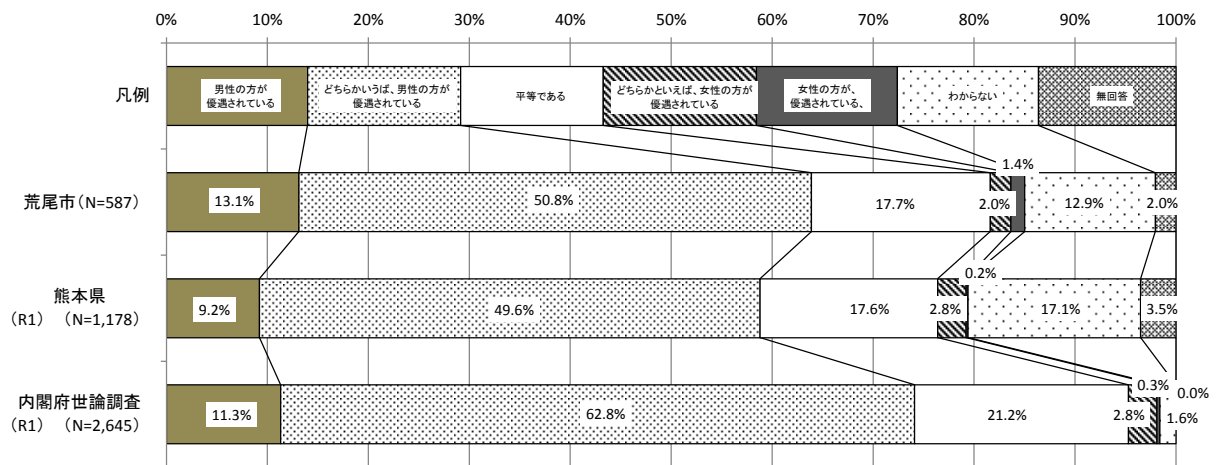




<前回との比較>



<他統計結果との比較>



## 2. 女性の社会的地位の変化

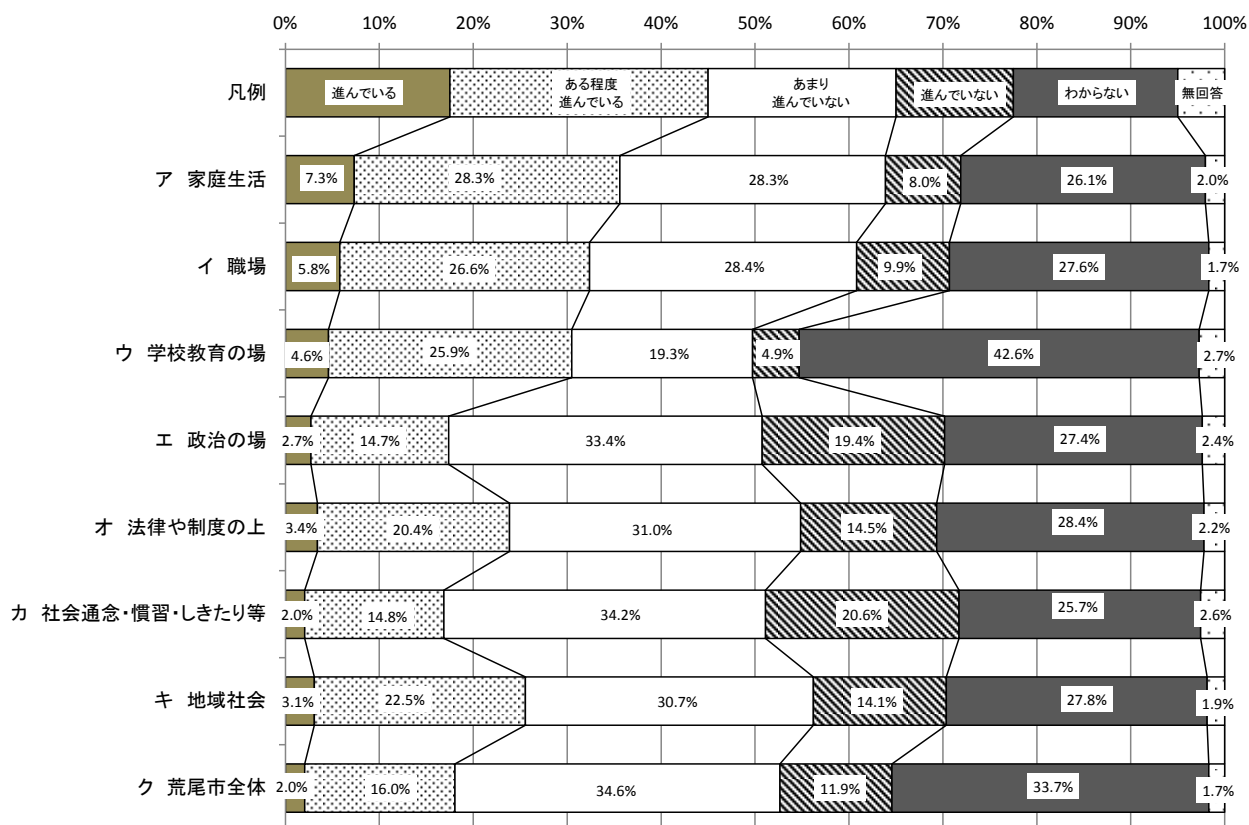
問2 あなたは、荒尾市において、この5年程度の間、次の各分野で女性の社会的活躍が進んでいると思いますか。次のア～クのそれぞれについて、1～5の中から1つずつ選び、○で囲んでください。

女性の社会的地位の変化について、「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を肯定派、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を否定派と表現すると、8分野の中で肯定派が多かった3分野は、「家庭生活」35.6% (7.3%+28.3%)、「職場」32.4% (5.8%+26.6%)、「学校教育の場」30.5% (4.6%+25.9%) であった。

最も肯定派が少なかったのは、「社会通念・慣習・しきたり」16.8% (2.0%+14.8%) であった。

それぞれの分野でも「わからない」の回答が多く、特に「学校教育の場」42.6%と、「荒尾市全体」33.7%が多く、地域全体の社会的地位の変化について回答者の判断に迷いがみられている。

### <総括>



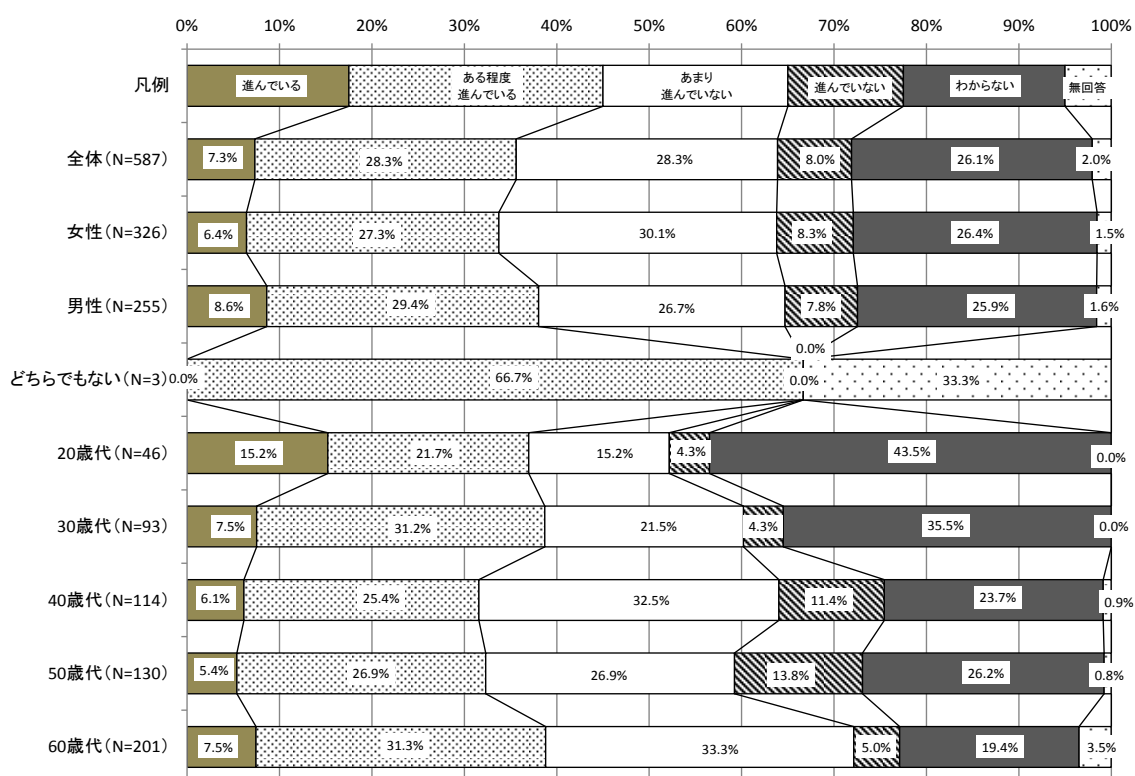
## ア) 家庭生活

肯定派が8分野中最も多い分野であった。「進んでいる」7.3%、「ある程度進んでいる」28.3%と、肯定派は合計35.6%、「あまり進んでいない」28.3%、「進んでいない」8.0%の否定派は合計36.3%、「わからない」26.1%となった。

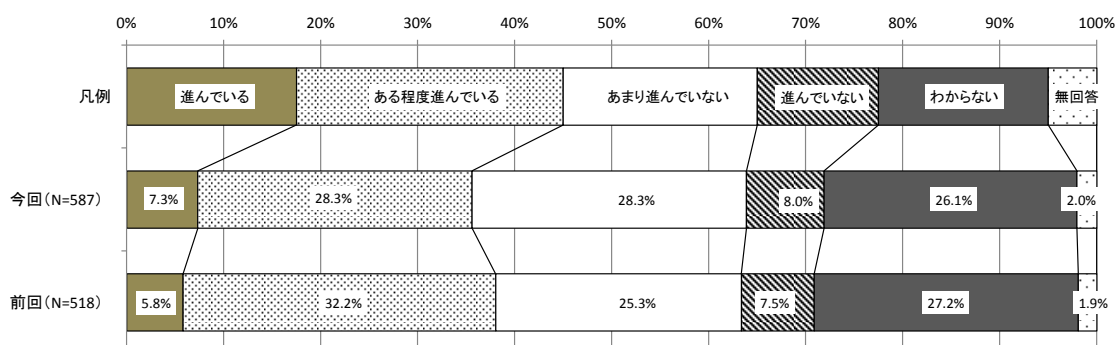
「肯定派」を性別で見ると、女性33.7%、男性38.0%と、女性の方が4.3ポイント低い。年齢別では、60歳代38.8%、30歳代38.7%、20歳代36.9%で高く、50歳代32.3%、40歳代31.5%で低い。その中で今回は、60歳代が7.9ポイント低下している。(前回:60歳代46.7%)

否定派は前回の32.8%(25.3%+7.5%)から3.5ポイント高くなった。

### <家庭生活>



### <前回との比較>



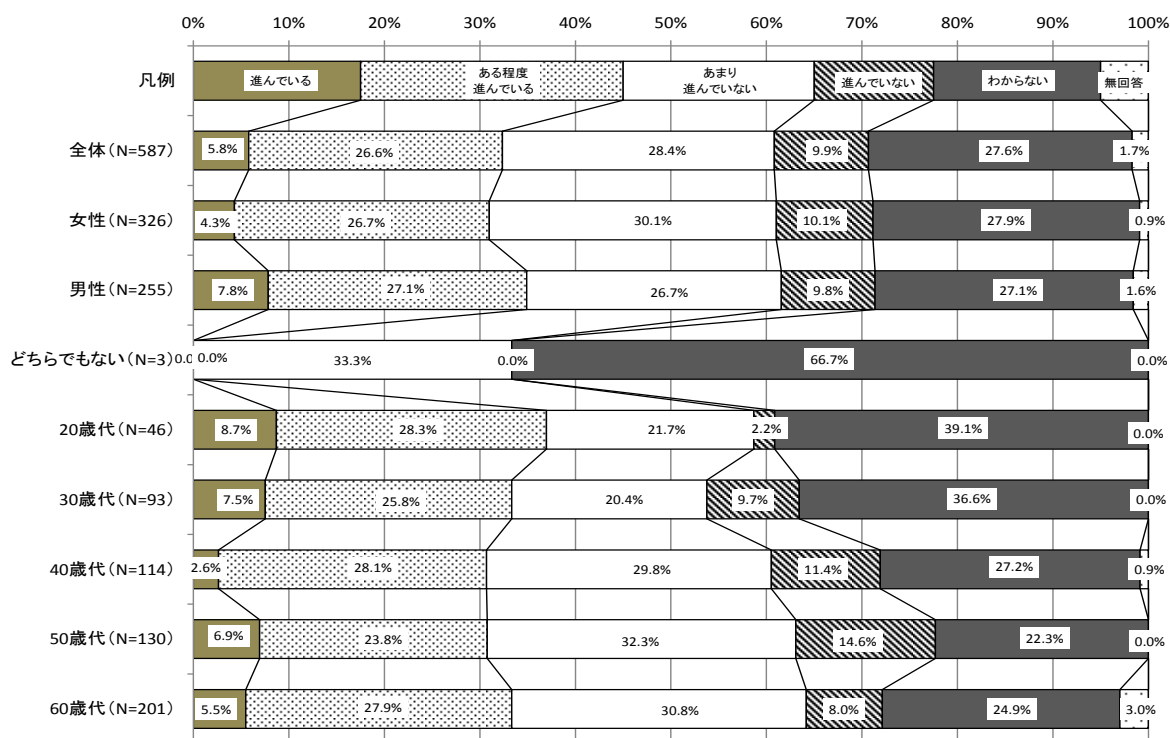
## イ) 職場

「進んでいる」5.8%「ある程度進んでいる」26.6%と、肯定派は合計32.4%で8分野中2番目に多く、「あまり進んでいない」28.4%、「進んでいない」9.9%と、否定派は合計38.3%、「わからない」27.6%で、否定派が4割近くとなった。

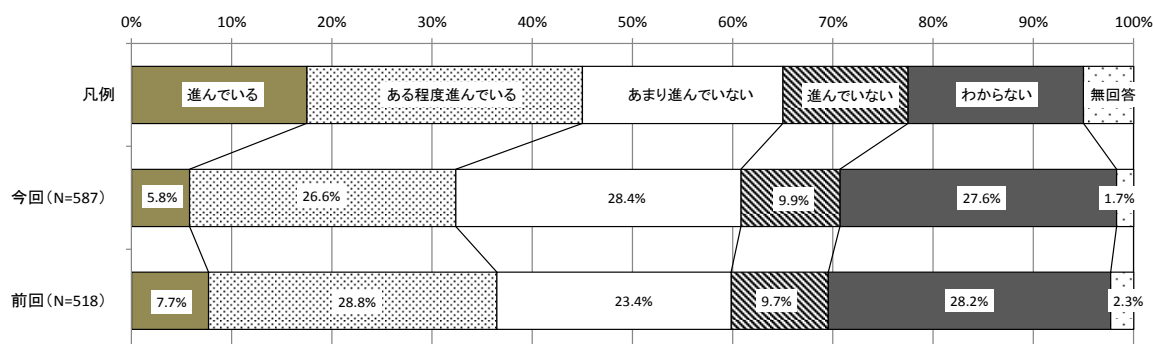
「肯定派」を性別でみると、女性31.0%、男性34.9%と女性の方が3.9ポイント低い。年齢別では、20歳代37.0%で高く、40歳代と50歳代が30.7%で低い。

前回調査の肯定派36.5%（7.7%+28.8%）と比較すると、今回の肯定派は32.4%へ後退し、否定派の数が高くなった。

### <職場>



### <前回との比較>



## ウ) 学校教育

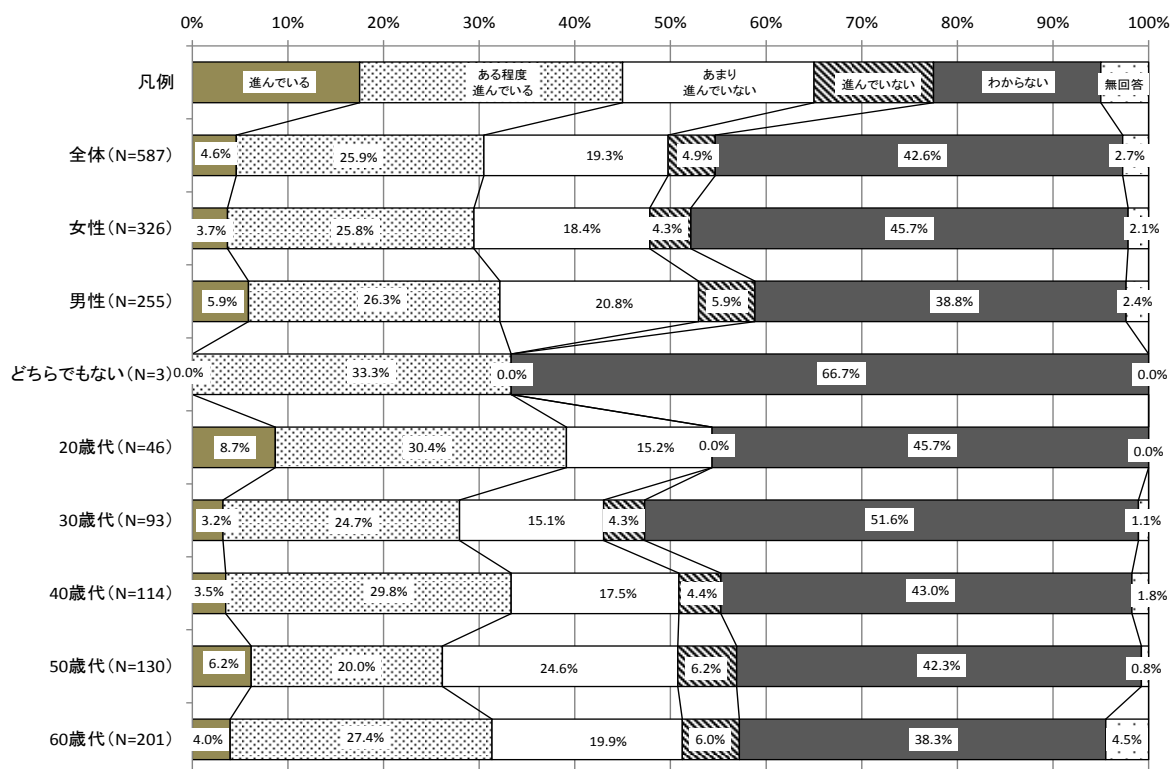
「進んでいる」4.6%、「ある程度進んでいる」25.9%と、肯定派は合計 30.5%で 8 分野中 3 番目となり、「あまり進んでいない」19.3%、「進んでいない」4.9%の否定派は 24.2%で 8 分野中では最も低かった。

「肯定派」を性別でみると、女性 29.5%、男性 32.2%となった。年齢別では 20 歳代 39.1%、40 歳代 33.3%が高く、50 歳代 26.2%、30 歳代 27.9%が高い。「わからない」は 30 歳代 51.6%が一番高かった。

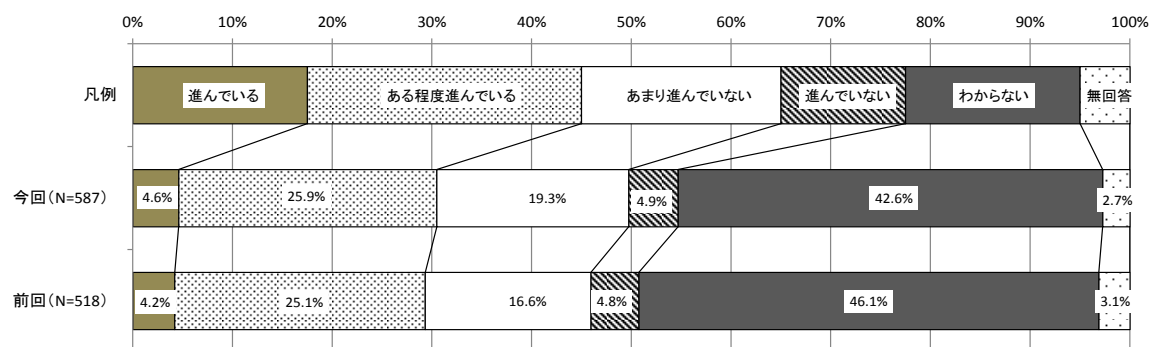
「わからない」が 8 分野中最も多く、30 歳代 51.6%、20 歳代 45.7%が目立った。

前回調査の肯定派 29.3% (4.2%+25.1%) と比較すると、今回 30.5%でありほぼ横ばいとなった。

### <学校教育>



### <前回との比較>



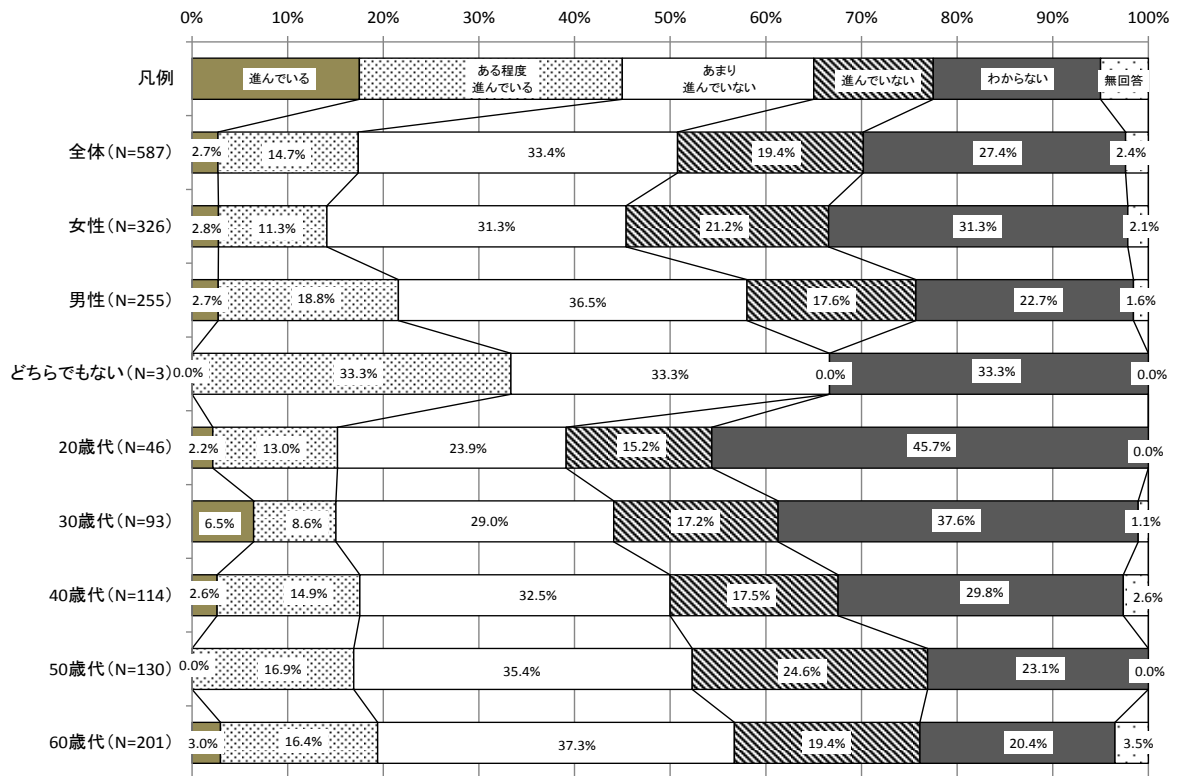
## 工) 政治の場

「進んでいる」2.7%、「ある程度進んでいる」14.7%と、肯定派は合計 17.4%、これに対して「あまり進んでいない」33.4%、「進んでいない」19.4%と、否定派は合計 52.8%、「わからない」27.4%で、肯定派が少なく、8 分野中で否定派が 2 番目に高かった。

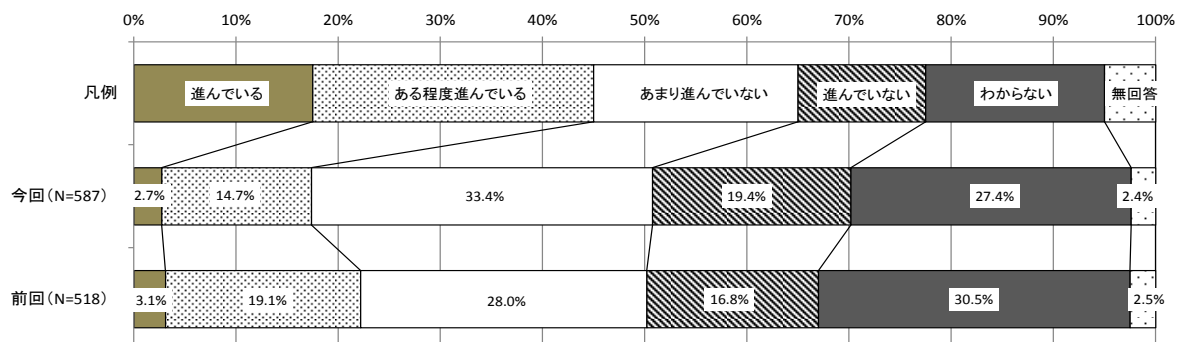
「肯定派」を性別で見ると、女性 14.1%、男性 21.5%と女性の方が 7.4 ポイント低い。年齢別では 60 歳代 19.4%と高く、一番低いのは 30 歳代 15.1%である。

前回調査の肯定派 22.2% (3.1%+19.1%) と比較すると、今回の肯定派は 17.4%へ後退し、否定派が 8.0 ポイント高い。

### <政治の場>



### <前回との比較>



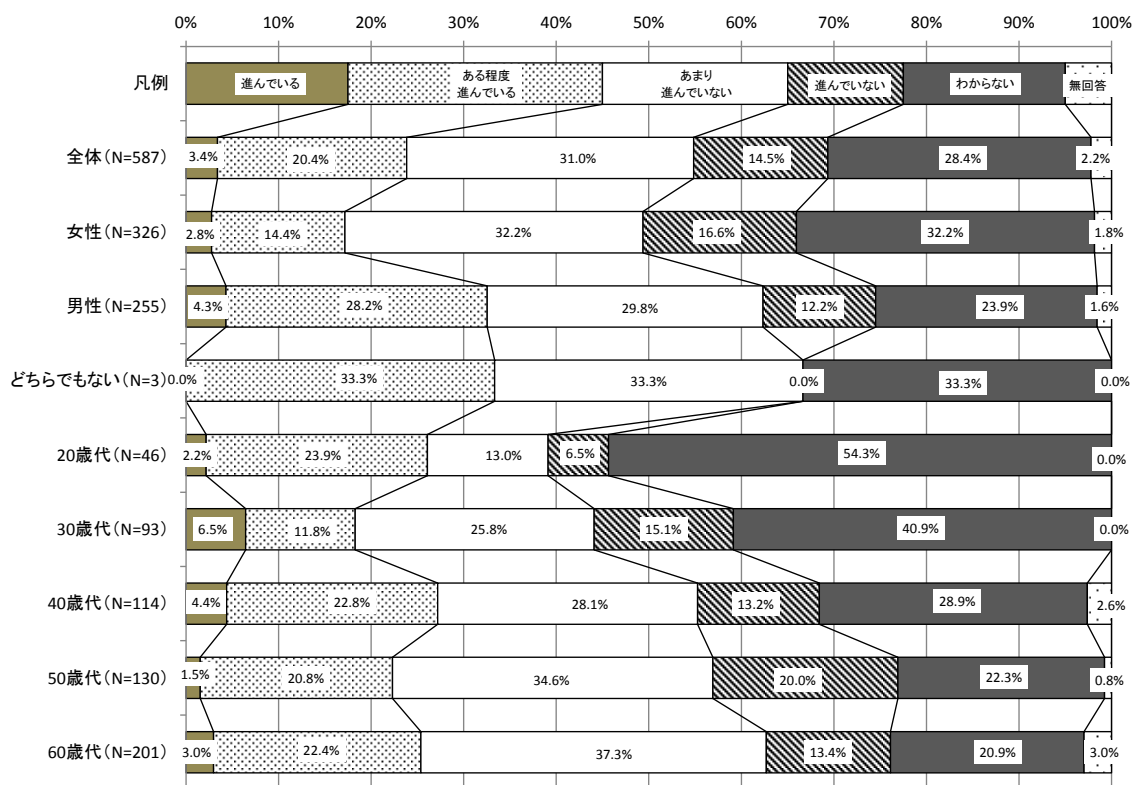
## オ) 法律や制度の上

「進んでいる」3.4%、「ある程度進んでいる」20.4%と、肯定派は合計 23.8%、これに対し「あまり進んでいない」31.0%、「進んでいない」14.5%と否定派は合計 45.5%、「わからない」28.4%であり、否定派が高くなっている。

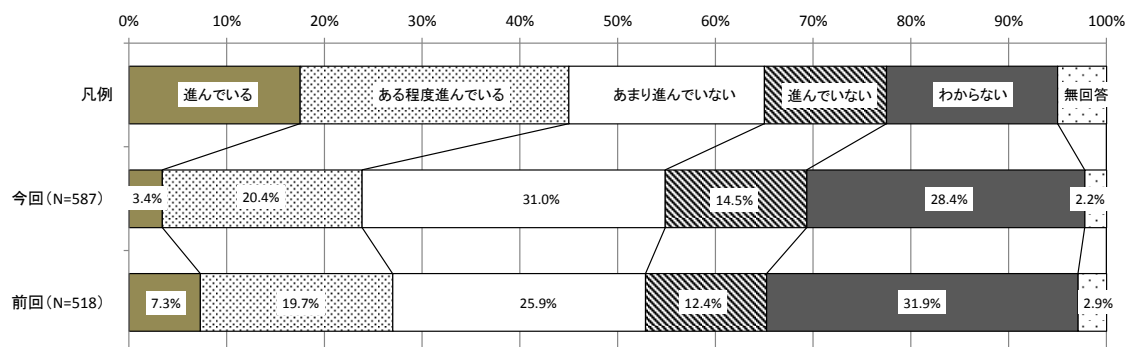
「肯定派」を性別で見ると、女性 17.2%、男性 32.5%と女性の方が 15.3 ポイント低い。年齢別では 40 歳代 27.2%で高く、30 歳代 18.3%で低い。「わからない」は、20 歳代 54.3%、30 歳代 40.9%と若い世代に高い。

前回調査の肯定派 27.0% (7.3%+19.7%) と比較すると、今回の肯定派は 23.8%と後退し、否定派が 7.2 ポイント高い。

### <法律や制度の上>



### <前回との比較>



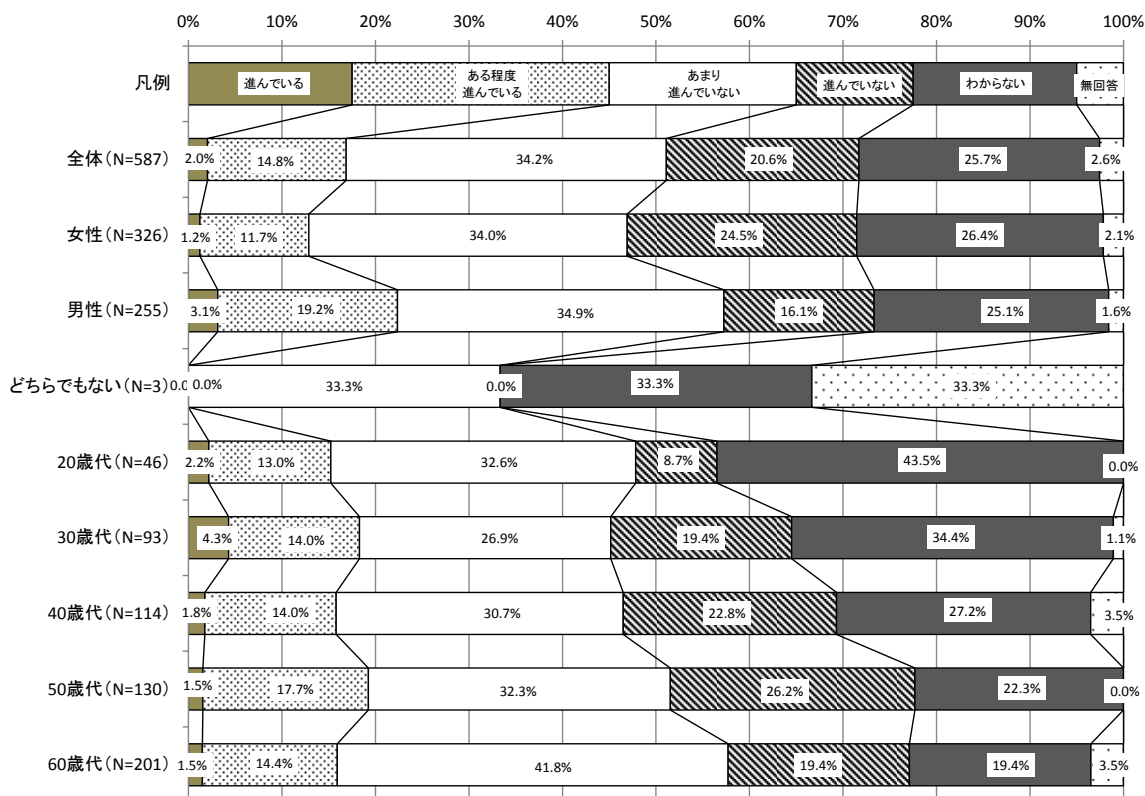
## 力) 社会通念・慣習等

「進んでいる」2.0%、「ある程度進んでいる」14.8%と、肯定派は合計 16.8%、これに対し「あまり進んでいない」34.2%、「進んでいない」20.6%と、否定派は合計 54.8%、「わからない」25.7%で、否定派が高くなっている。

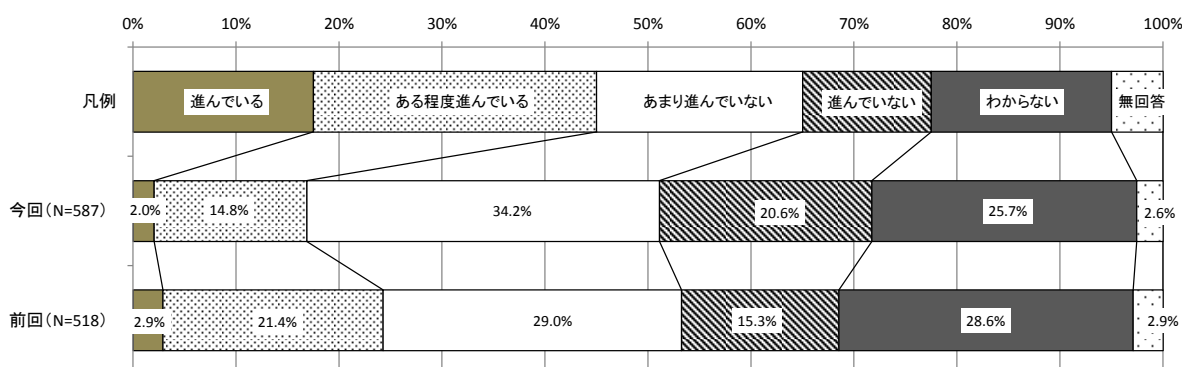
「肯定派」を性別でみると、女性 12.9%、男性 22.3%と女性の方が 9.4 ポイント低い。年齢別では 50 歳代 19.2%で高く、20 歳代 15.2%が低い。「わからない」は、20 歳代 43.5%、30 歳代 34.4%と若い世代が高い。

前回調査の肯定派 24.3% (2.9%+21.4%) と比較すると、今回の肯定派は 16.8%へ 7.5 ポイント後退し、否定派も 10.5 ポイント高くなった。

### <社会通念・慣習等>



### <前回との比較>





## キ) 地域活動、社会の場

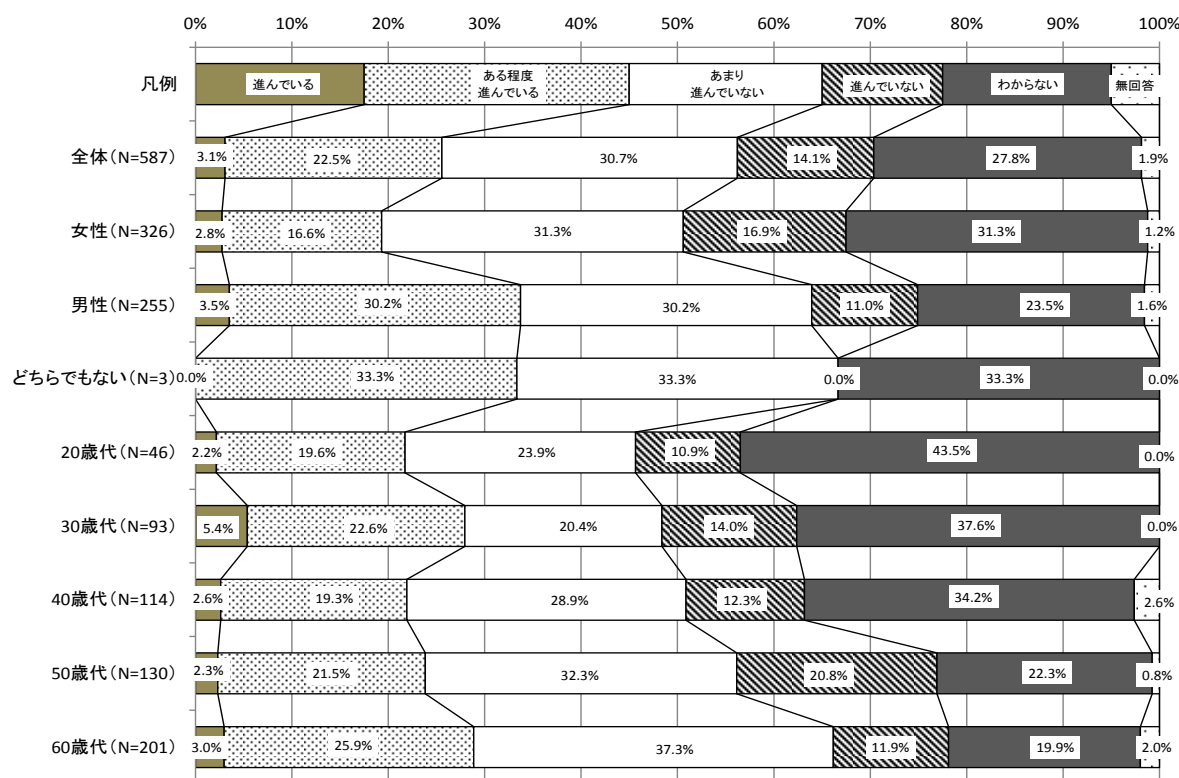
「進んでいる」3.1%、「ある程度進んでいる」22.5%と、肯定派は合計 25.6%、これに対し「あまり進んでいない」30.7%、「進んでいない」14.1%と、否定派は合計 44.8%、「わからない」27.8%で、否定派が4割以上を占める。

「肯定派」を性別でみると、女性 19.4%、男性 33.7%と女性の方が 14.3 ポイント低い。年齢別では、60歳代 28.9%で最も高く、20歳代 21.8%が最も低くなっている。

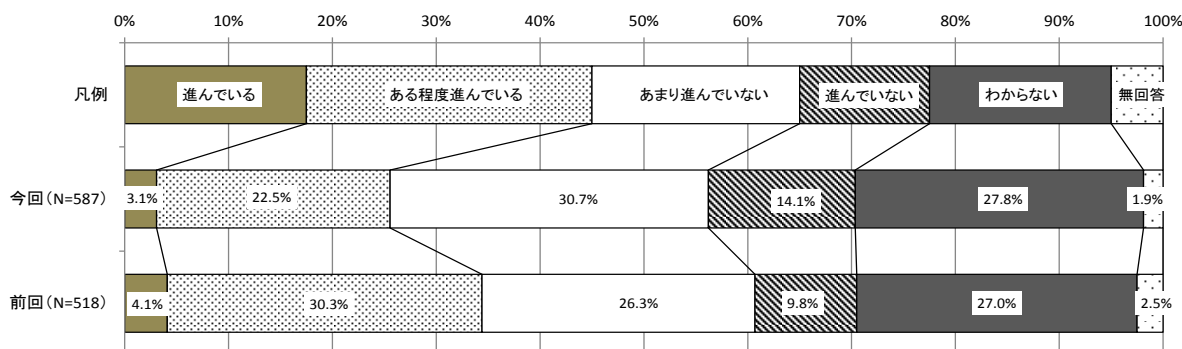
「わからない」は20歳代 43.5%、30歳代 37.6%と若い世代が高い。

前回調査の肯定派 34.4% (4.1%+30.3%) と比較すると、今回の肯定派は 25.6% と肯定派の数が低くなっている。

### <地域活動、社会の場>



### <前回との比較>



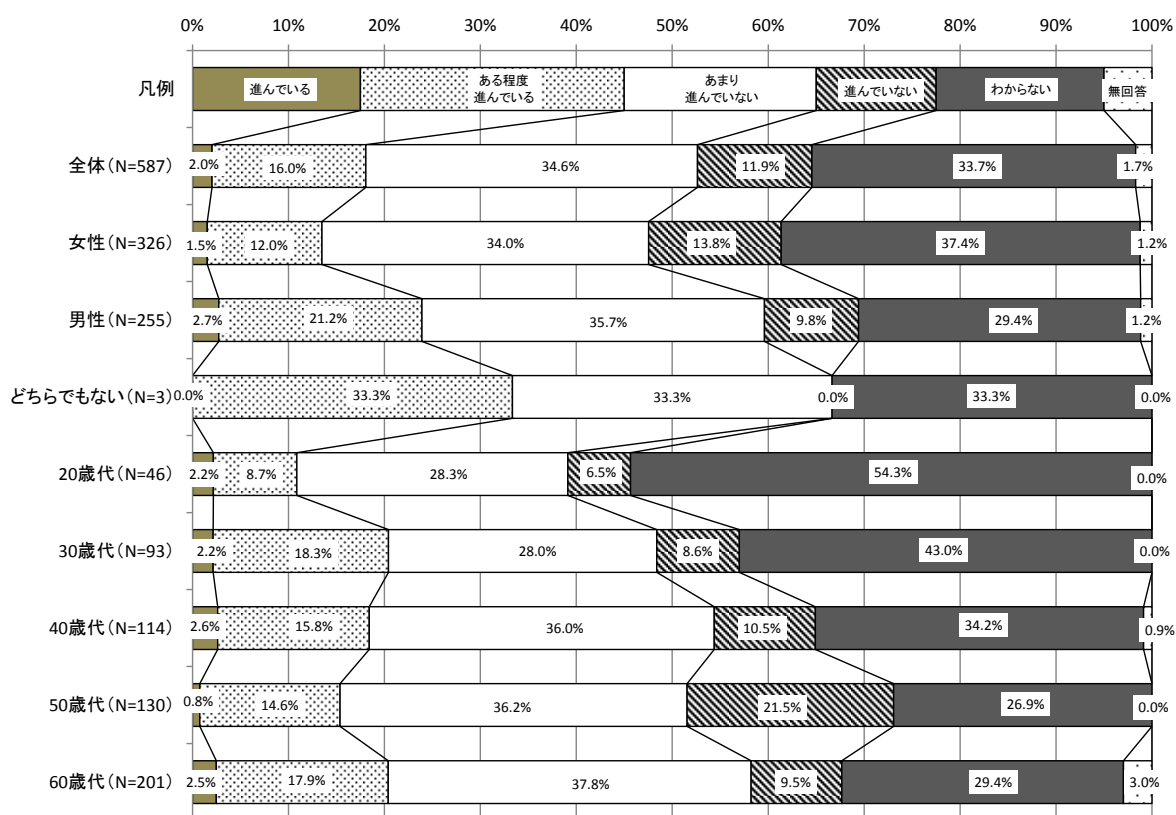
## ク) 荒尾市について全体的にみて

「進んでいる」2.0%、「ある程度進んでいる」16.0%と、肯定派は合計 18.0%、これに対し「あまり進んでいない」34.6%、「進んでいない」11.9%と、否定派は合計 46.5%、「わからない」33.7%であり、全体としての評価は否定的である。

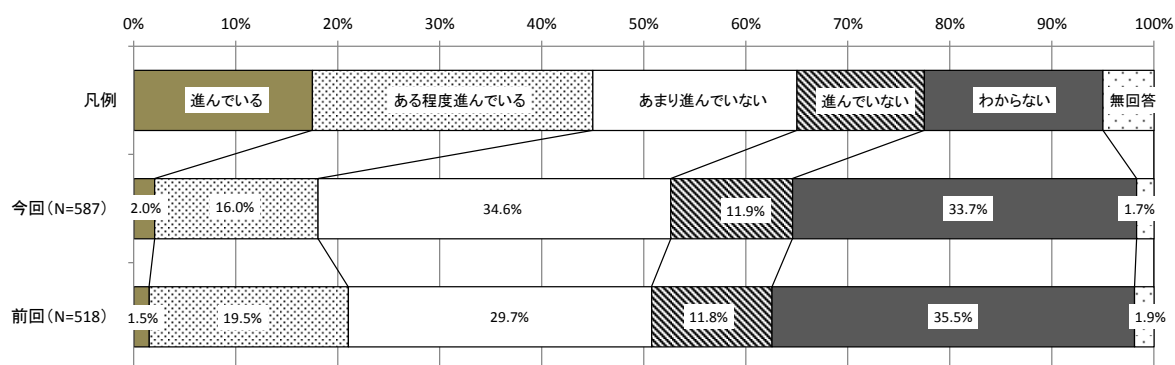
「肯定派」を性別でみると、女性 13.5%、男性 23.9%と、女性の方が 10.4 ポイント低い。年齢別では 30 歳代 20.5%、60 歳代 20.4%が高く、20 歳代 10.9%が最も低い。「わからない」は 20 歳代 54.3%、30 歳代 43.0%と若い世代が高い。

前回調査の肯定派 21.0% (1.5%+19.5%) と比較すると、今回の肯定派は 3.0 ポイント後退し、否定派が 6.3 ポイント高くなった。

### <荒尾市について全体的にみて>



### <前回との比較>



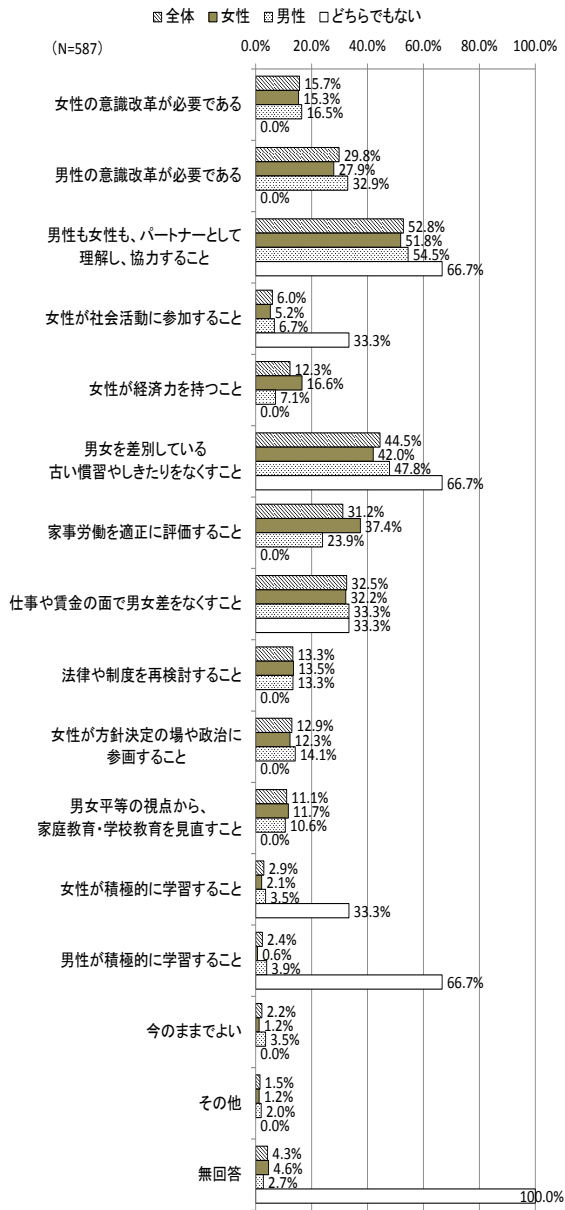
### 3. 男女平等になるために特に重要なこと

問3 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、あなたが特に重要だと思うものを、次の1～15の中から3つまで選び、○で囲んでください。

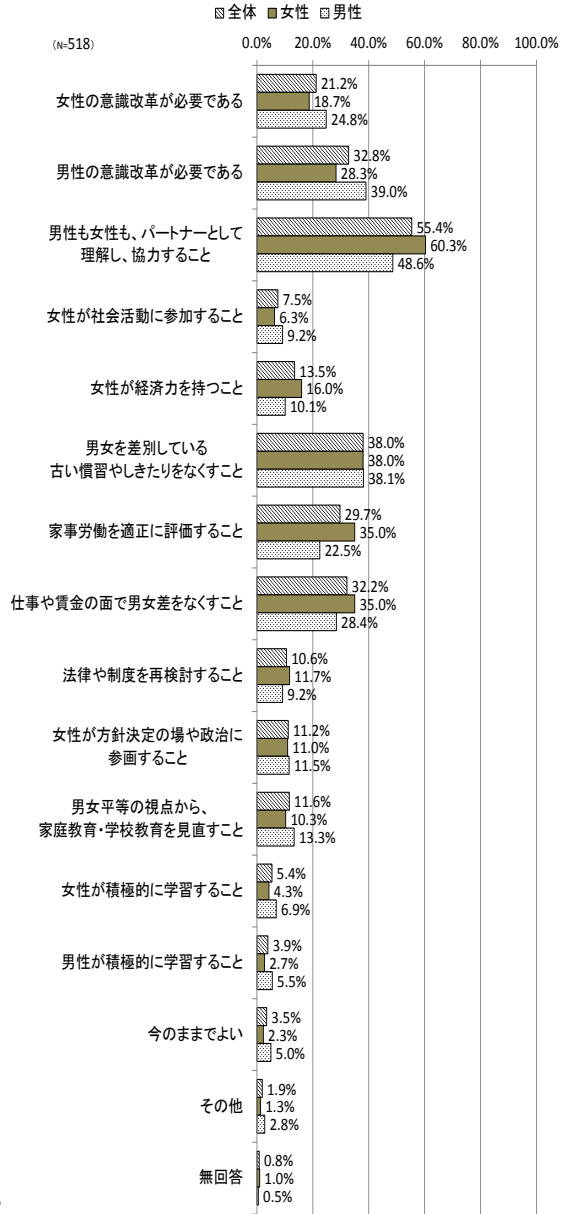
全体では、多い順に、「男性も女性も、パートナーとして理解し、協力すること」52.8%、「男女を差別している古い慣習やしきたりをなくすこと」44.5%、「仕事や賃金の面で男女差をなくすこと」32.5%、「家事労働を適正に評価すること」31.2%、「男性の意識改革が必要である」29.8%、と続いている。

性別では、男女とも1位の回答は「男性も女性も、パートナーとして理解し、協力すること」で、男性54.5%、女性51.8%とほぼ同数となった。「男女を差別している古い慣習やしきたりをなくすこと」に関しては男性回答の2位(47.8%)で、女性回答でも2位(42.0%)となった。

<今回(R2)>



<前回(H27)>



#### 4. 「男女が個性と能力を十分に発揮できる社会が実現されているか」の考え方

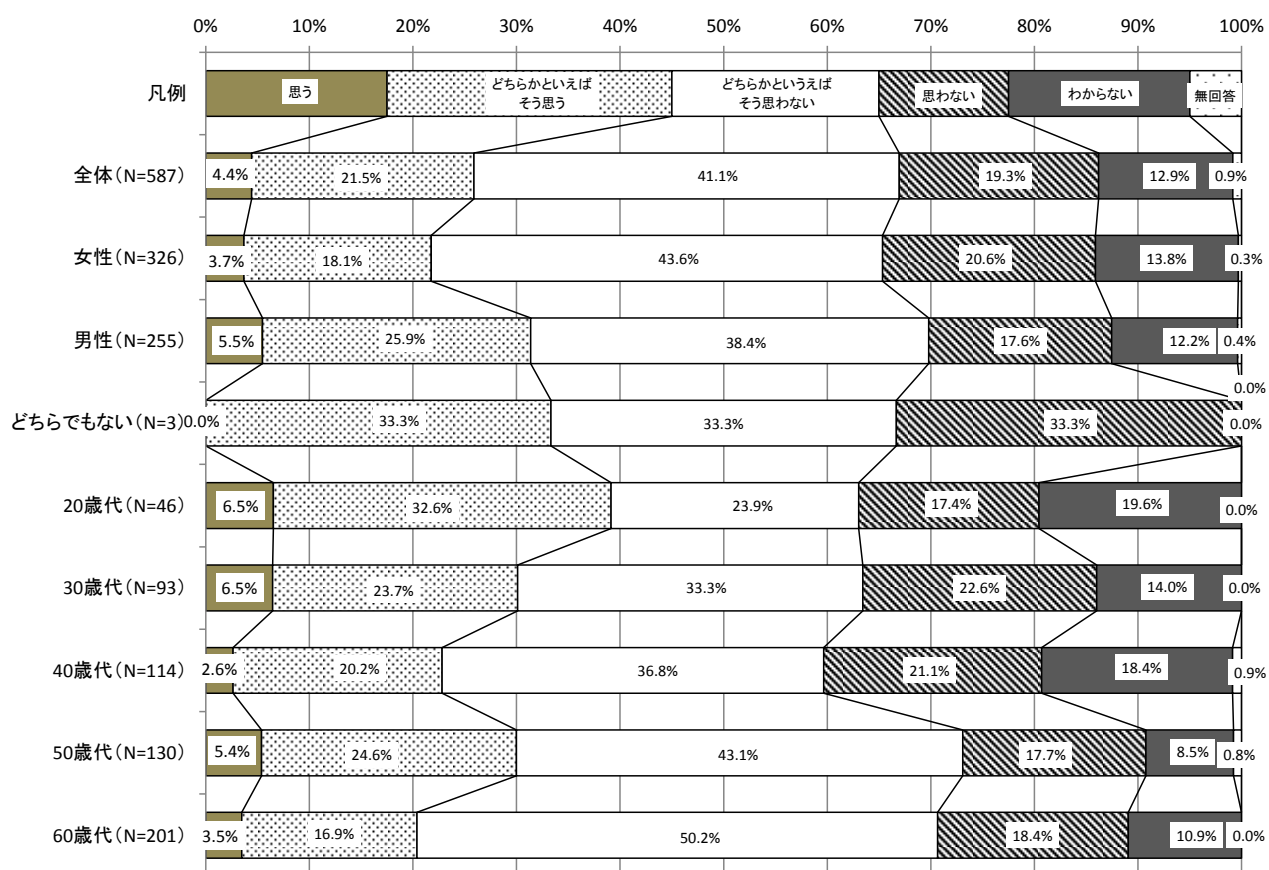
問4 あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。次の1～5の中から1つだけ選び、○で囲んでください。

「思う」4.4%、「どちらかといえば思う」21.5%と、肯定派は合計 25.9%、これに対し「どちらかといえばそう思わない」41.1%、「思わない」19.3%と、否定派は合計 60.4%、「わからない」12.9%であり、全体としての評価は否定的である。

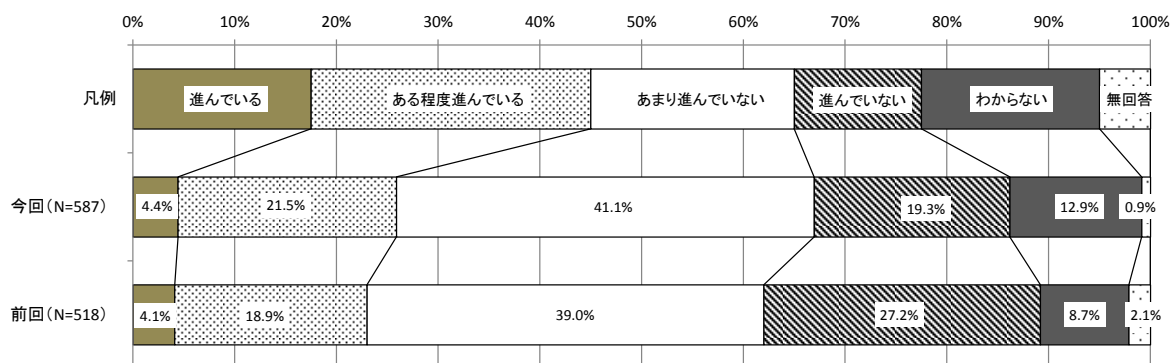
「肯定派」を性別でみると、女性 21.8%、男性 31.4%と、女性の方が 9.6 ポイント低い。年齢別では 20 歳代 39.1%が高く、60 歳代 20.4%が最も低い。「わからない」は 20 歳代 19.6%、40 歳代 18.4%が高い。

前回調査の否定派 66.2% (39.0%+27.2%) と比較すると、今回は 5.8 ポイント低くなっている。

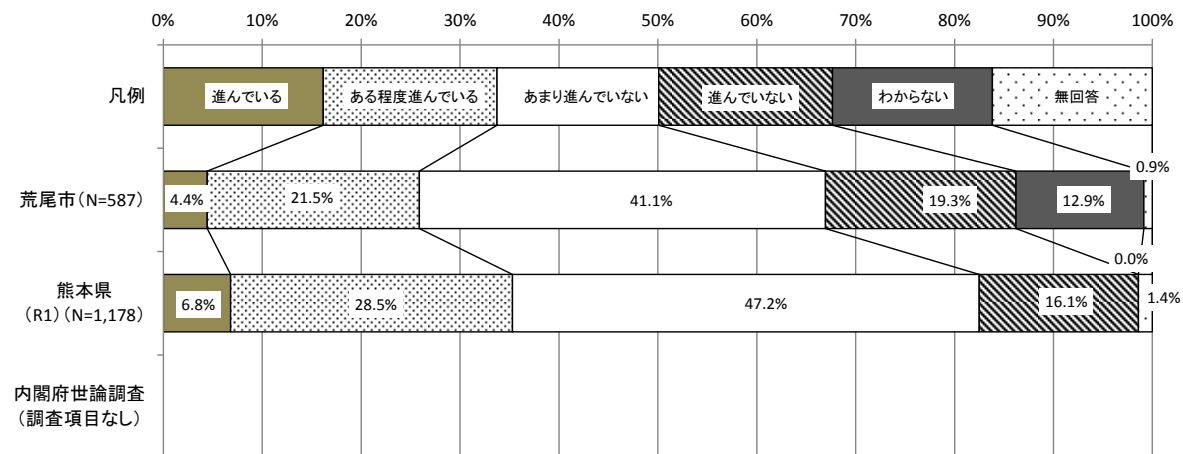
熊本県との比較では、肯定派は熊本県 35.3%に対して荒尾市 25.9%と 9.4 ポイント低くなっている。



<前回との比較>



<他調査との比較>



## 5. 「男は仕事、女は家庭」の考え方

問5 「男は仕事、女は家庭」などと、性別によって役割を固定する考え方について、どう思われますか。次の1～5の中から1つだけ選び、○で囲んでください。

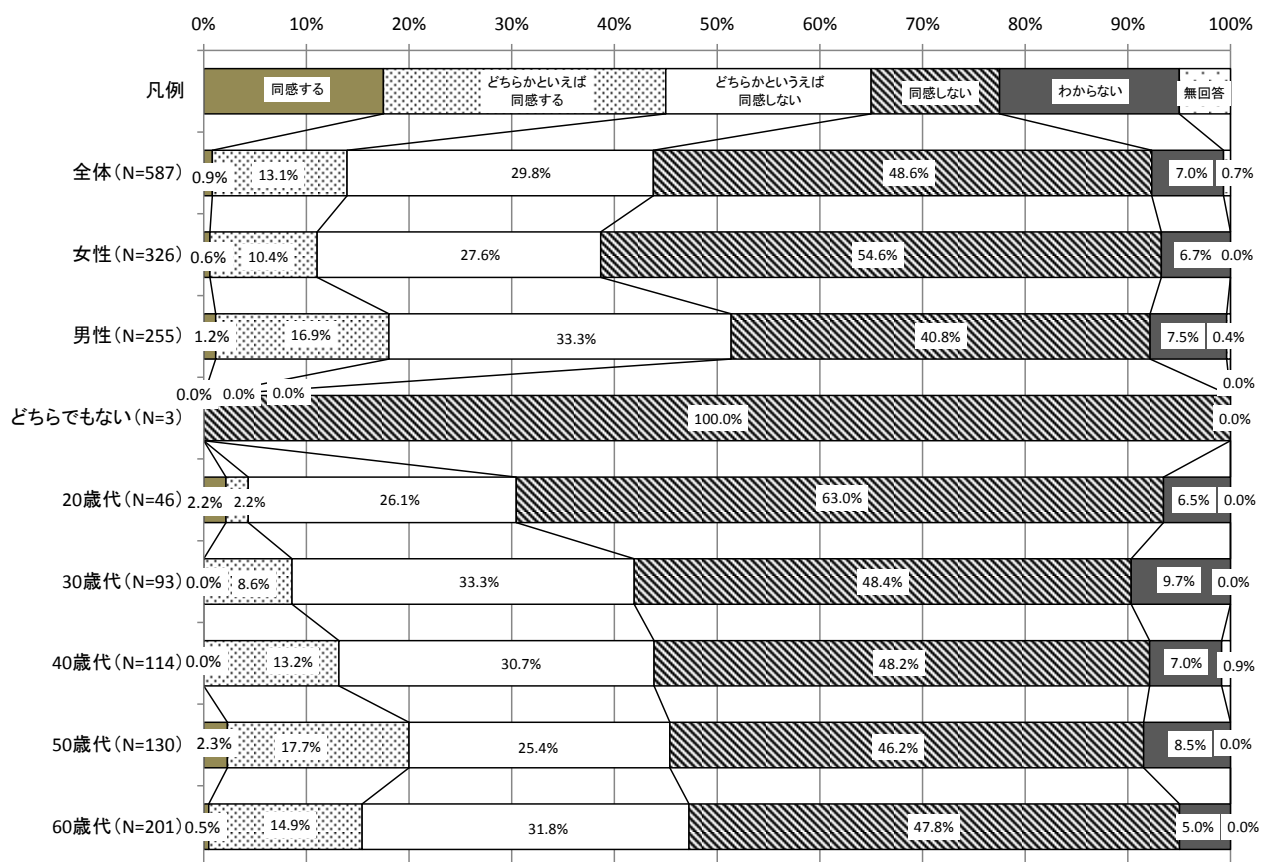
「同感しない人」78.4% (同感しない 48.6% + どちらかといえば同感しない 29.8%)、  
「同感する人」14.0% (同感する 0.9% + どちらかといえば同感する 13.1%) であり、  
回答者の約7分の1が固定的性別役割分担意識を持っている。

男女別で見ると、男性は「同感しない人」74.1% (33.3% + 40.8%)、「同感する人」  
18.1% (1.2% + 16.9%)、女性は「同感しない人」82.2% (27.6% + 54.6%)、「同感  
する人」11.0% (0.6% + 10.4%) であり、女性の方が「同感しない人」の割合が 8.1  
ポイント高かった。

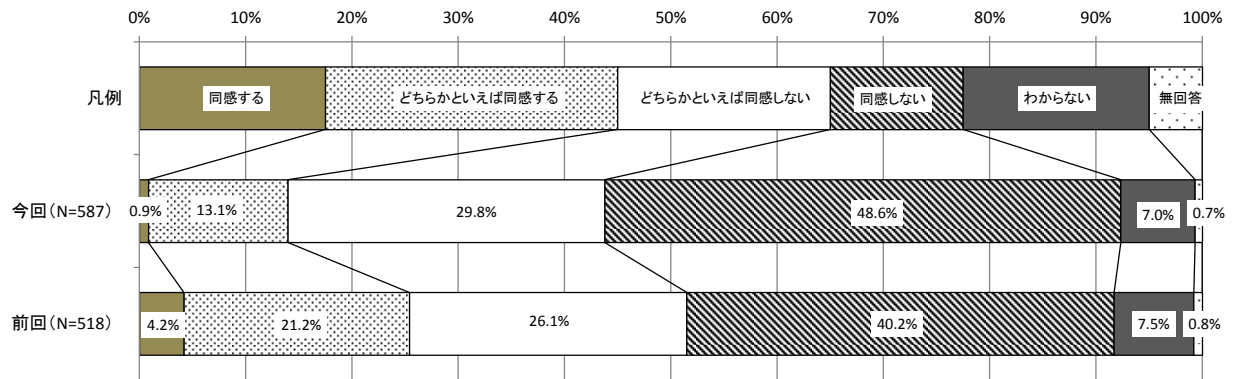
年齢別では、「同感する人」が 50 歳代 20.0% (2.3% + 17.7%) が最も多く、20 歳  
代 4.4% が最も低かった。

前回調査の「同感する」25.4% (4.2% + 21.2%) と比較すると、今回の「同感する」  
は 11.4 ポイント減少している。

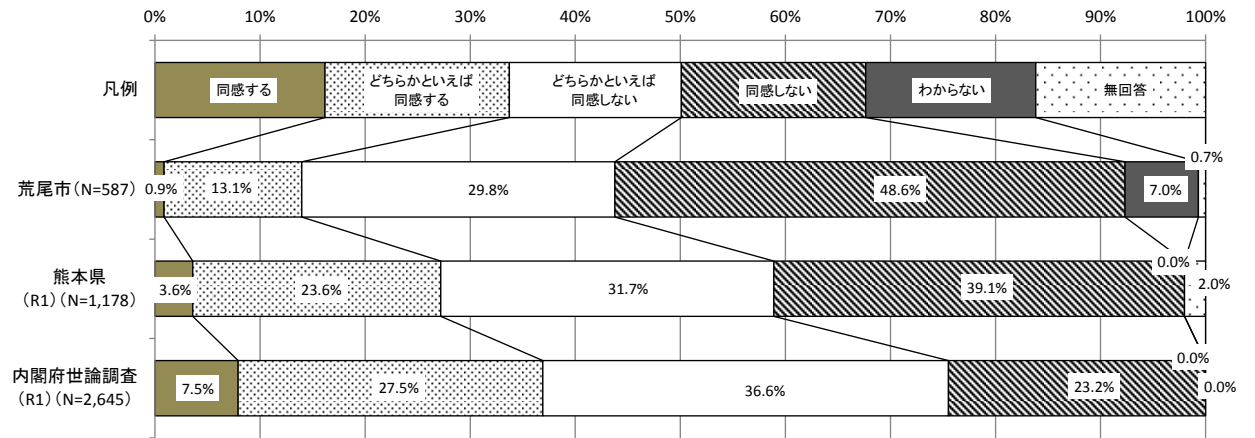
熊本県との比較では、熊本県民は「同感しない」70.8% (31.7% + 39.1%) で、荒  
尾市民の「同感しない」78.4% (48.6% + 29.9%) の方が多く、このことは固定的性  
別役割分担意識を持つ荒尾市民が少ないことを意味する。



<前回との比較>



<他統計結果との比較>





### 5-1. 「男は仕事、女は家庭」の考え方に同感する理由

問5-1 問5で、「1. 同感する」又は「2. どちらかといえば同感する」を選ばれた方におたずねします。あなたが同感する理由は、次の1～6のうち、どれが最も近いですか。1つだけ選び、○で囲んでください。

同感する理由として最も多くあげられたのは、「夫婦の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」26.8%、次いで「男性は仕事、女性は家事（掃除・洗濯など）や育児に向いているから」19.5%、「女性は仕事を持っても不利な状況におかれるから」15.9%、「妻が働きに出ると子育て・家事（掃除・洗濯など）・介護に差し支えるから」14.6%、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」12.2%の順であった。

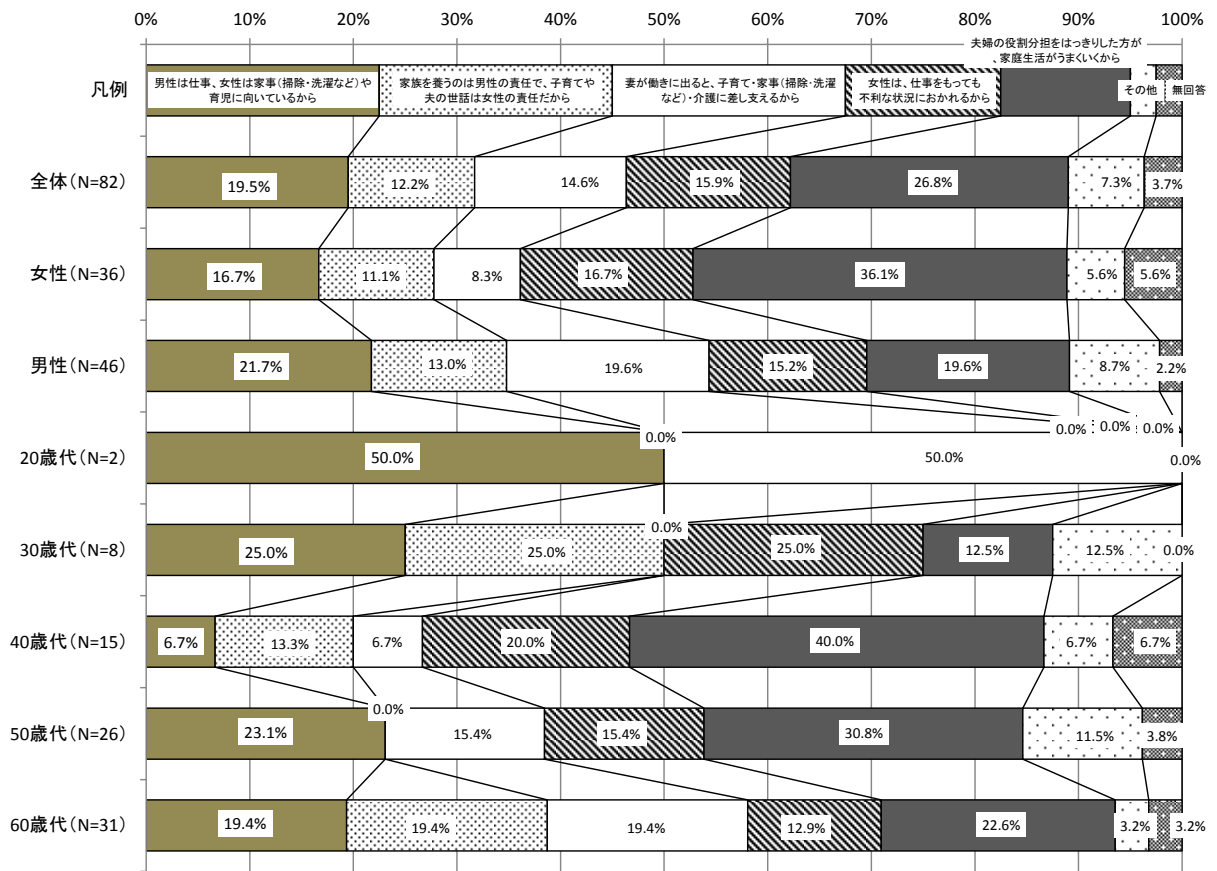
性別でみると、男性の回答は多い順に、「男性は仕事、女性は家事（掃除・洗濯など）や育児に向いているから」21.7%、「妻が働きに出ると子育て・家事（掃除・洗濯など）・介護に差し支えるから」19.6%、「夫婦の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」19.6%、「女性は仕事を持っても不利な状況におかれるから」15.2%、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」13.0%であった。

女性の回答では「夫婦の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」36.1%、「男性は仕事、女性は家事（掃除・洗濯など）や育児に向いているから」16.7%、「女性は仕事を持っても不利な状況におかれるから」16.7%、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」11.1%「妻が働きに出ると子育て・家事（掃除・洗濯など）・介護に差し支えるから」8.3%となった。

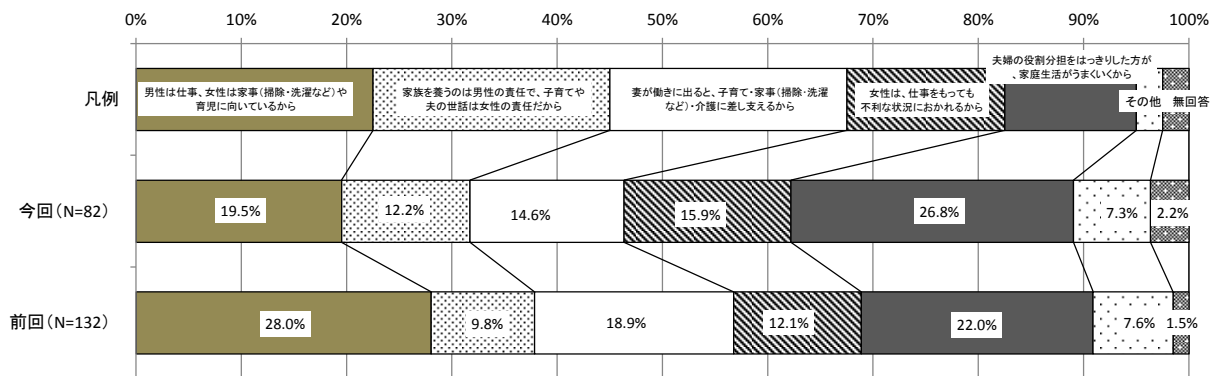
「夫婦の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」を年齢別で見ると、40歳代が40.0%で最も高く、50歳代30.8%、60歳代22.6%と、40歳代から60歳代の中高年齢層では最も多い項目である。

なお、20歳代、30歳代は、回答数が少数のため注意が必要である。

前回調査では男性は仕事、女性は家事（掃除・洗濯など）や育児に向いているから」28.0%が多かったが、今回は8.5ポイント減少し、「夫婦の役割分担をはっきりした方が、家庭生活がうまくいくから」が4.8ポイント高くなった。



<前回との比較>



## 6. 女性が職業を持つこと

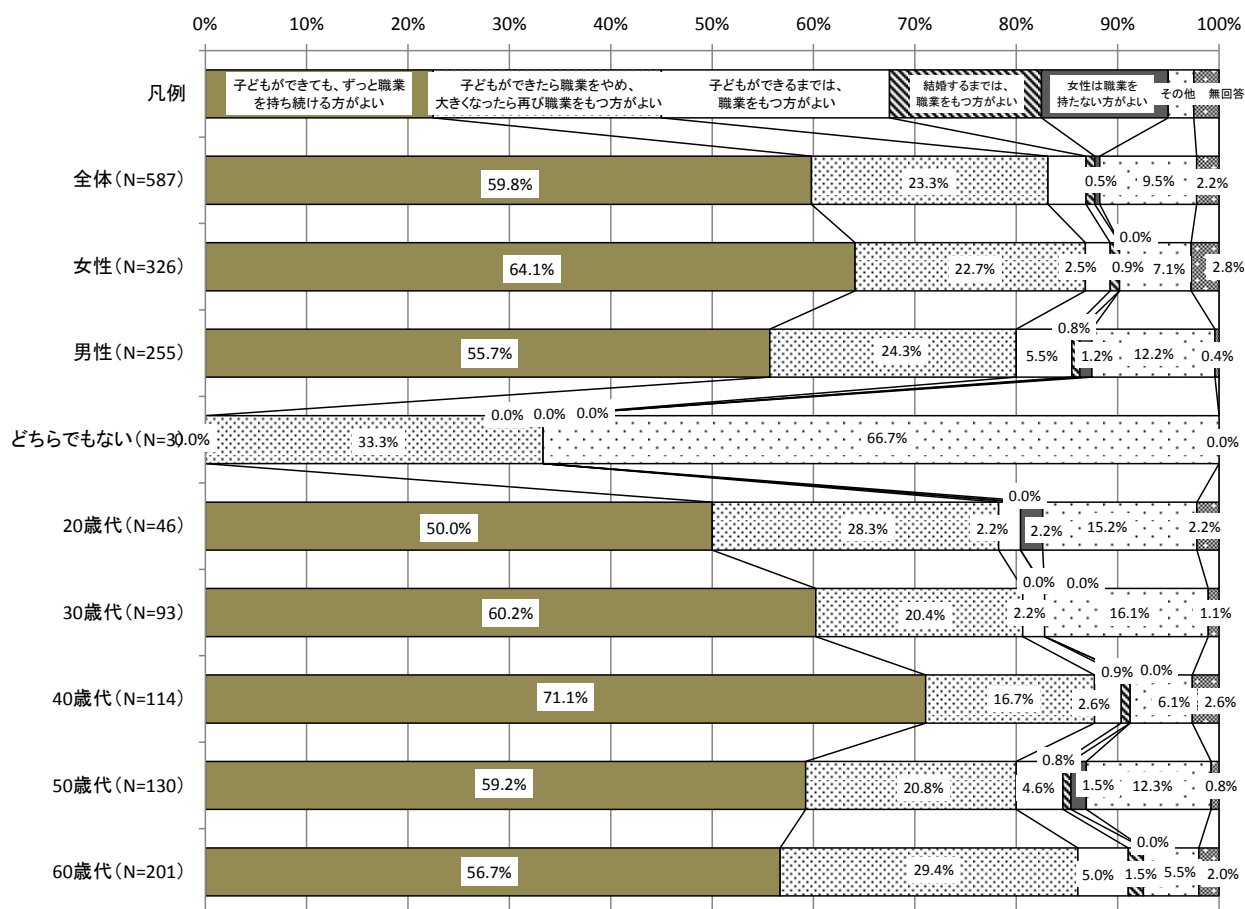
問6 あなたは女性が職業を持つことについてどう思いますか。次の1～5の中から1つだけ選び、○で囲んでください。

全体として、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」という「職業継続型」59.8%で一番多く、次いで「子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という「職業中断・再就業型」23.3%である。

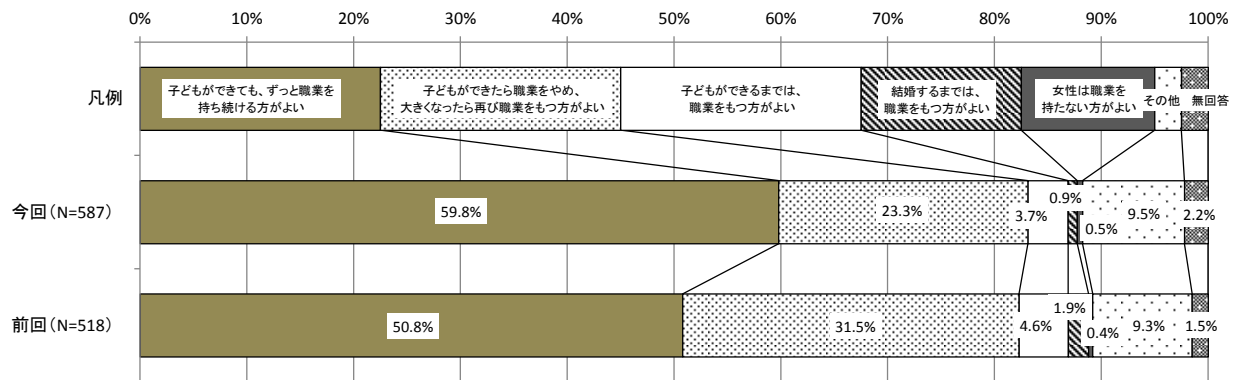
性別では、「職業継続型」である「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が、女性64.1%、男性55.7%と女性が8.4ポイント高かった。

年齢別では、30歳代～50歳代は「職業継続型」が多く、20歳代と60歳代は「子どもができたら職業をいったんやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の「職業中断・再就業型」も多い。

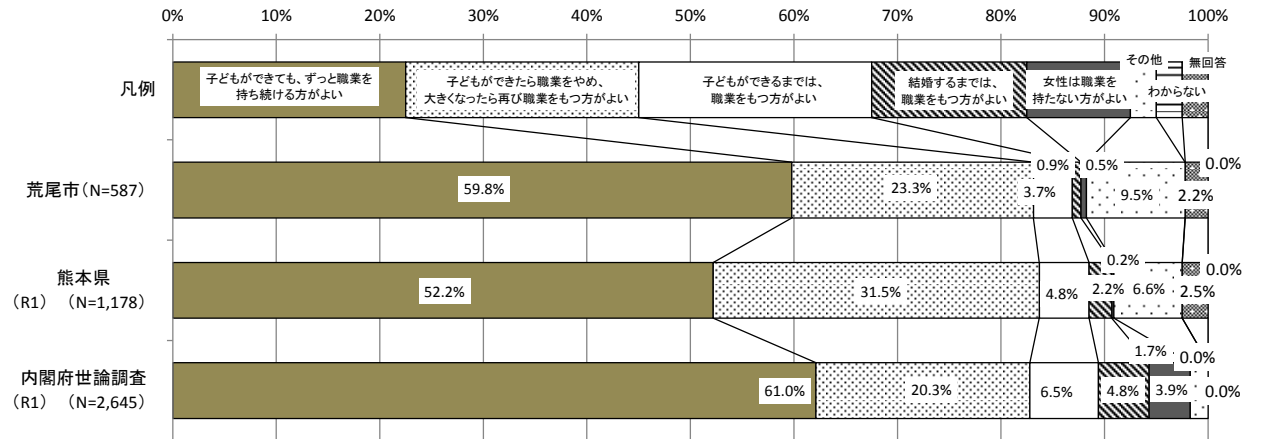
前回調査では「職業継続型」50.8%であり、今回は9.0ポイント増加し、熊本県と比較しても荒尾市民が7.6ポイント高かった。



<前回との比較>



<他統計結果との比較>



## 7. 女性が職業を持ち続けられない理由

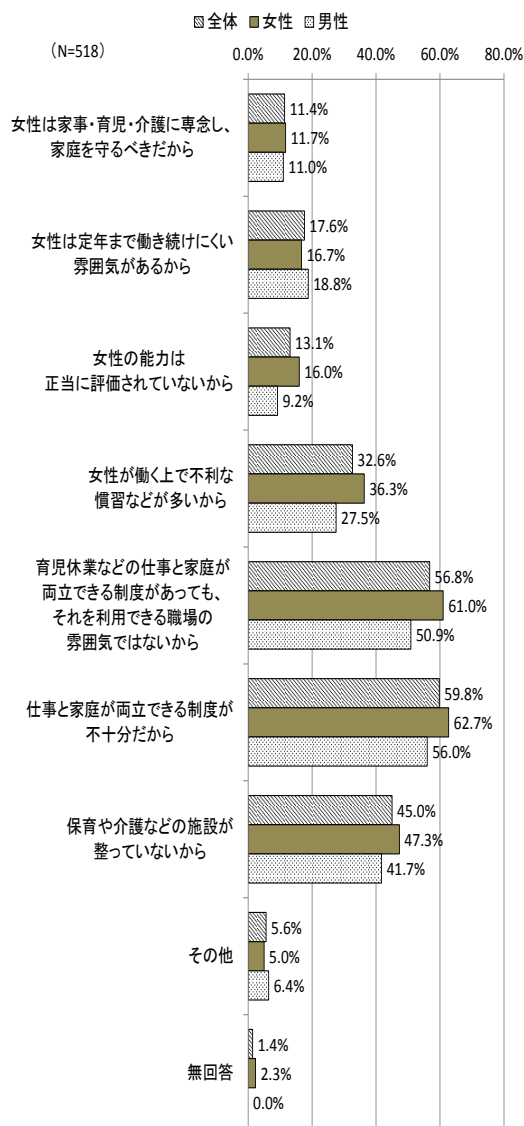
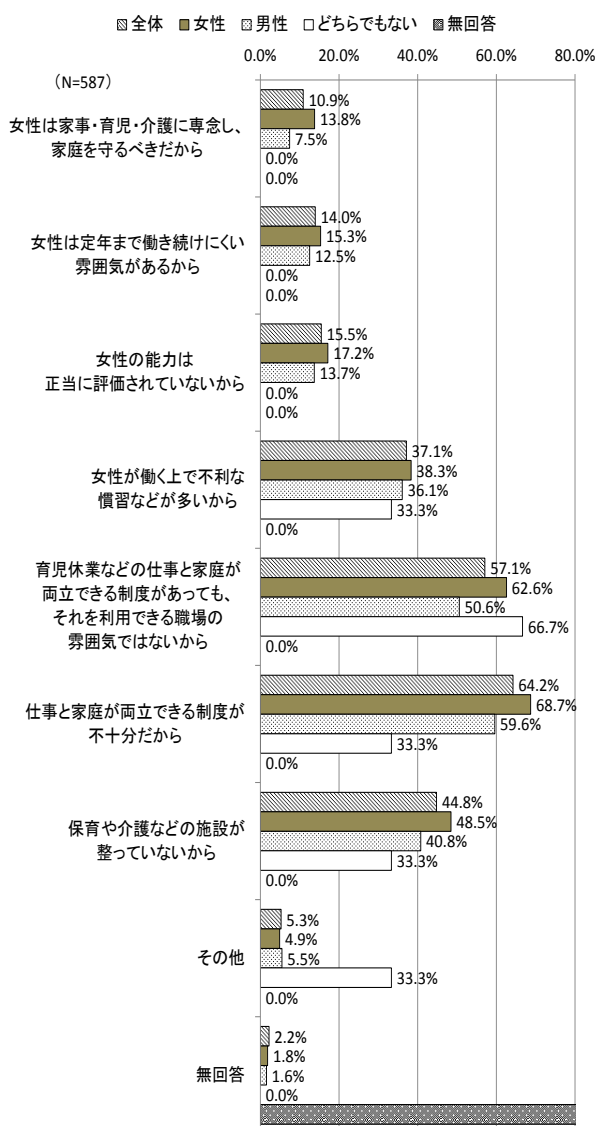
問7 一般的に、女性が職業を持ち続けられない理由について、あなたはどのようにお考えになりますか。次の1～8の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

女性が職業を持ち続けられない理由は多い順に「仕事と家庭が両立できる制度が不十分である」64.2%、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」57.1%、「保育や介護などの施設が整っていないから」44.8%であった。

性別では、男女とも回答順位は同じであるが、「その他」を除いて女性がどれも多く選んでおり回答比率が高いことが特徴である。

<今回(R2)>

<前回(H27)>



## 8. 進路や職業選択における性別意識

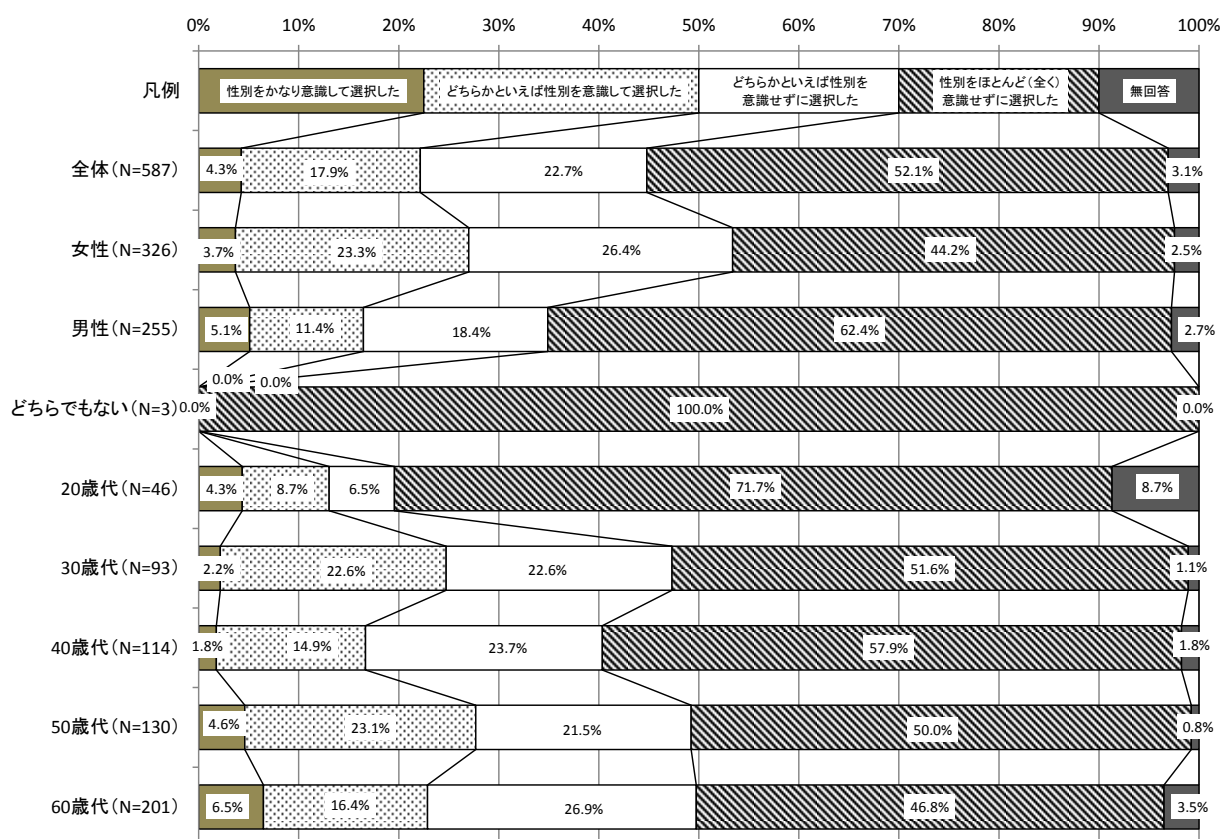
問8 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。次の1～4の中から1つだけ選び、○で囲んでください。

進路や職業を選択する際に、「性別を意識して選択した」（性別をかなり意識して選択した4.3%+どちらかといえば性別を意識して選択した17.9%）は22.2%で、「性別を意識せずに選択した」（どちらかといえば性別を意識せずに選択した22.7%+性別をほとんど意識せずに選択した52.1%）は74.8%であり、性別が意識されていないという結果であった。

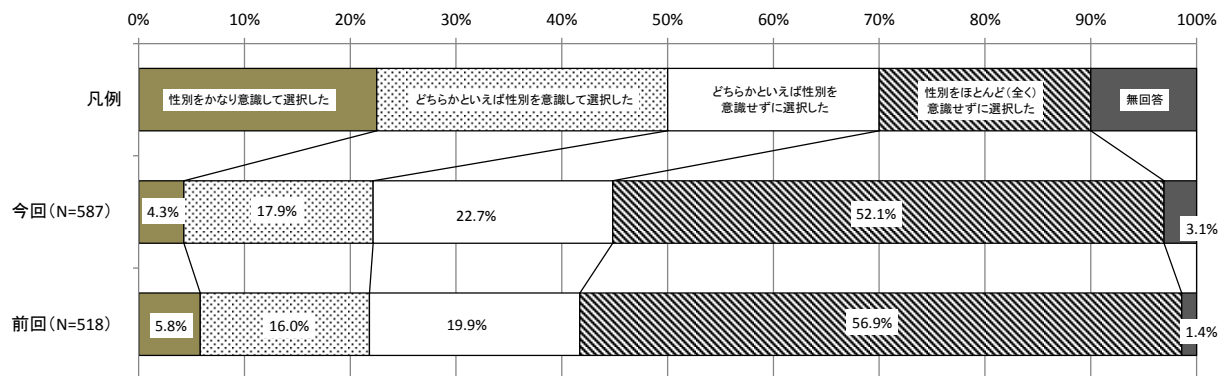
男女別では、「性別を意識して選択した」割合が、男性16.5%（5.1%+11.4%）、女性27.0%（3.7%+23.3%）と、女性が10.5ポイント高くなった。

年代別では、「性別を意識して選択した」が最も多かったのは50歳代27.7%（4.6%+23.1%）で、最も少なかったのは20歳代13.0%（4.3%+8.7%）となった。

荒尾市民の「性別を意識せずに選択した」割合は74.8%となった。



<前回との比較>





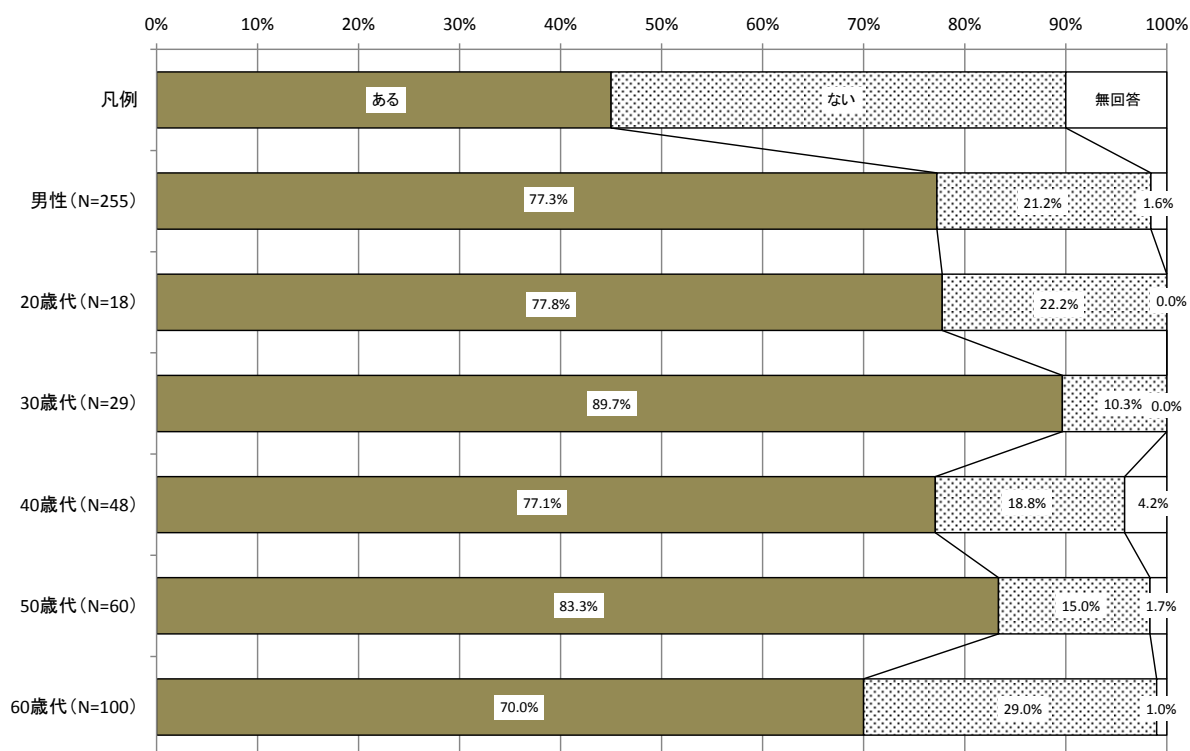
## 9. 「男もつらい」と感じること

問9 男性におたずねします。

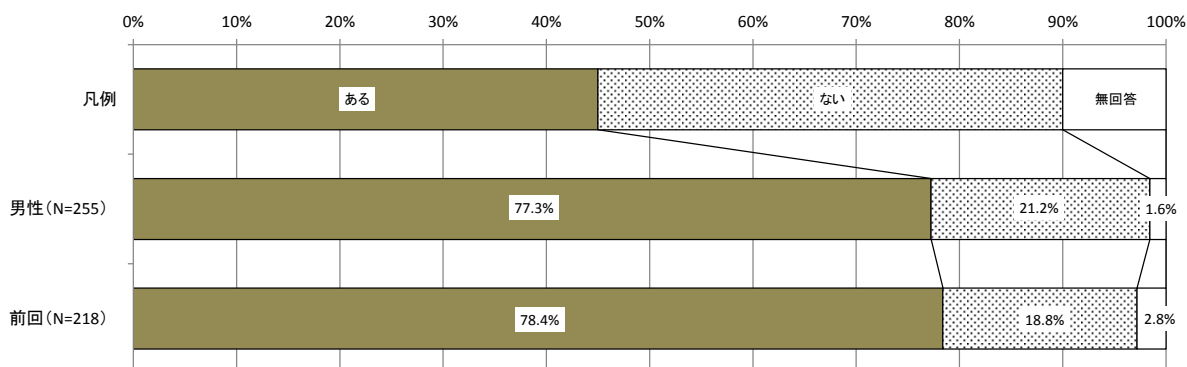
あなたは、「男もつらい」と感じることはありますか。

男性 255 人の 77.3% が「男もつらい」と感じることがあると回答していた。

年代別では、30 歳代 89.7%、50 歳代 83.3%、20 歳代 77.8%、40 歳代 77.1%、60 歳代 70.0% の順で高くなった。



<前回との比較>



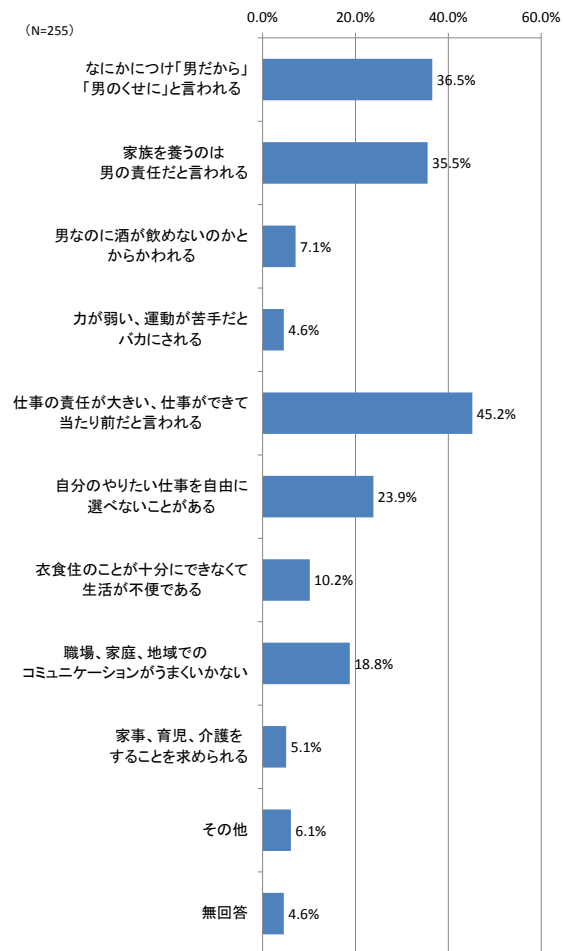
### 9-1. 「男もつらい」と感じる理由

問9-1 問9で「1. ある」を選ばれた方におたずねします。それはどんなことですか。次の1～10の中から選び、○で囲んでください。(いくつでも)

「男もつらい」と感じることで最も多くの回答があったのは、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」45.2%、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」36.5%、「家族を養うのは男の責任だと言われる」35.5%が高かった。男性も従来の男らしさや性別役割分業観による困難があることが分かる。

前回との比較では、「家族を養うのは男の責任だと言われる」が4.3ポイント低くなったが、それ以外は大きな変化はなかった。

<今回(R2)>



<前回(H27)>

